

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年6月27日
【事業年度】	第71期（自平成29年4月1日至平成30年3月31日）
【会社名】	日本電子株式会社
【英訳名】	JEOL Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 栗原 権右衛門
【本店の所在の場所】	東京都昭島市武蔵野三丁目1番2号
【電話番号】	(042) 543 - 1111
【事務連絡者氏名】	財務本部副本部長兼経理部長 山崎 修
【最寄りの連絡場所】	東京都昭島市武蔵野三丁目1番2号
【電話番号】	(042) 542 - 2124
【事務連絡者氏名】	財務本部副本部長兼経理部長 山崎 修
【縦覧に供する場所】	日本電子株式会社東京事務所 (東京都千代田区大手町二丁目1番1号 大手町野村ビル13階) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (百万円)	99,331	95,379	107,373	99,698	104,570
経常利益 (百万円)	3,340	3,532	5,370	1,724	4,363
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	3,984	1,991	4,089	595	4,532
包括利益 (百万円)	6,441	4,413	2,121	875	5,779
純資産額 (百万円)	28,791	30,449	32,086	32,284	37,387
総資産額 (百万円)	111,452	115,868	113,501	109,045	114,764
1株当たり純資産額 (円)	276.72	315.10	332.05	334.11	386.92
1株当たり当期純利益金額 (円)	47.98	18.58	42.32	6.17	46.90
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	47.13	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	25.8	26.3	28.3	29.6	32.6
自己資本利益率 (%)	16.4	6.7	13.1	1.8	13.0
株価収益率 (倍)	8.17	33.96	13.50	95.95	20.87
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,812	9,404	8,137	573	6,524
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,779	2,711	1,697	1,093	468
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,835	3,377	5,820	289	7,512
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	7,640	11,465	11,717	9,420	9,813
従業員数 (人)	2,967	2,952	2,963	2,976	3,008

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第68期、第69期、第70期および第71期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期
決算年月	平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月	平成30年 3月
売上高 (百万円)	79,425	75,823	87,516	83,599	89,736
経常利益 (百万円)	2,719	2,817	4,205	571	4,541
当期純利益 (百万円)	1,861	2,082	3,510	612	4,391
資本金 (百万円)	10,037	10,037	10,037	10,037	10,037
発行済株式総数					
普通株式 (千株)	97,715	97,715	97,715	97,715	97,715
優先株式	2,000	-	-	-	-
純資産額 (百万円)	27,641	28,542	30,481	31,028	35,356
総資産額 (百万円)	90,560	93,426	96,808	94,433	97,318
1株当たり純資産額 (円)	264.82	295.37	315.44	321.11	365.90
1株当たり配当額					
普通株式	5.00	5.00	6.00	7.00	8.00
(うち、1株当たり中間配当額) (円)	(2.50)	(2.50)	(2.50)	(3.50)	(3.50)
優先株式	50,000.00	-	-	-	-
(うち、1株当たり中間配当額)	(25,000.00)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	21.34	19.52	36.32	6.34	45.45
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	22.02	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	30.5	30.6	31.5	32.9	36.3
自己資本利益率 (%)	7.9	7.4	11.9	2.0	13.2
株価収益率 (倍)	18.37	32.33	15.69	93.38	21.54
配当性向 (%)	23.4	25.6	16.5	110.4	17.6
従業員数 (人)	1,894	1,898	1,903	1,909	1,912

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第68期、第69期、第70期および第71期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【沿革】

- 昭和24年5月 東京都三鷹市に「株式会社日本電子光学研究所」（資本金500千円）設立、電子顕微鏡の製造・販売を開始
- 昭和27年11月 産業機器分野に進出（高周波焼入装置完成）
- 昭和28年3月 東京事務所開設
- 昭和29年10月 大阪営業所開設（昭和56年6月大阪支店に改称）
- 昭和31年8月 分析機器分野に進出（磁気共鳴装置完成）
- 昭和34年5月 名古屋営業所開設（昭和56年6月名古屋支店に改称）
- 昭和35年9月 東京都昭島市に「さくら精機株式会社」設立（平成元年12月「日本電子テクニクス株式会社」（現連結子会社）に変更）
- 昭和36年5月 「日本電子株式会社」に商号変更
- 昭和37年4月 東京証券取引所市場第二部に上場
- 12月 米国に「JEOLCO(U.S.A.)INC.」設立（平成5年4月「JEOL USA, INC.」（現連結子会社）に変更）
- 昭和39年4月 昭島製作所開発館完成
- 11月 フランスに「JEOLCO(FRANCE)S.A.」設立（平成17年4月「JEOL(EUROPE)SAS」（現連結子会社）に変更）
- 昭和41年6月 本店を三鷹市より昭島市へ移転登記
- 8月 東京証券取引所市場第一部に上場
- 昭和43年7月 英国に「JEOLCO(U.K.)LTD.」設立（昭和46年4月「JEOL(U.K.)LTD.」（現連結子会社）に変更）
- 10月 豪州に「JEOL(AUSTRALASIA)PTY.LTD.」（現連結子会社）設立
- 昭和46年4月 英文社名をJEOL Ltd.に変更
- 昭和47年4月 医用機器分野に進出（生化学自動分析装置完成）
- 昭和48年2月 オランダに「JEOL(EUROPE)B.V.」（現連結子会社）設立
- 3月 スウェーデンに「JEOL(SKANDINAVISKA)A.B.」設立（平成29年1月「JEOL(Nordic)AB」（現連結子会社）に変更）
- 昭和49年6月 東京都昭島市に「日電子物産株式会社」設立（平成元年12月「日本電子アクティブ株式会社」に変更、平成21年7月当社に吸収合併）
- 7月 東京都昭島市に「日電子技術サービス株式会社」設立（平成元年12月「日本電子データム株式会社」に変更、平成21年7月当社に吸収合併）
- 昭和59年4月 イタリアに「JEOL(ITALIA)S.p.A.」（現連結子会社）設立
- 昭和63年8月 横浜支店開設
- 平成元年4月 東京都昭島市に「日本電子クリエイティブ株式会社」（平成16年4月当社に吸収合併）設立
- 平成6年2月 韓国に「JEOL KOREA LTD.」設立
- 平成7年1月 シンガポールに「JEOL ASIA PTE.LTD.」（現連結子会社）設立
- 平成9年6月 ドイツに「JEOL(GERMANY)GmbH」（現連結子会社）設立
- 平成11年1月 台湾に「JEOL DATUM TAIWAN LTD.」設立（平成15年7月「JEOL TAIWAN SEMICONDUCTORS LTD.」（現連結子会社）に変更）
- 7月 東京事務所を千代田区より立川市に移転
- 平成14年3月 「山形クリエイティブ株式会社」設立（平成28年4月「日本電子山形株式会社」（現連結子会社）に変更）
- 平成16年4月 「日本電子クリエイティブ株式会社」当社に吸収合併
- 平成21年7月 「日本電子データム株式会社」「日本電子アクティブ株式会社」当社に吸収合併
- 平成23年4月 東京都昭島市に分社型の新設分割により(株)JEOL RESONANCE（現連結子会社）を設立

### 3【事業の内容】

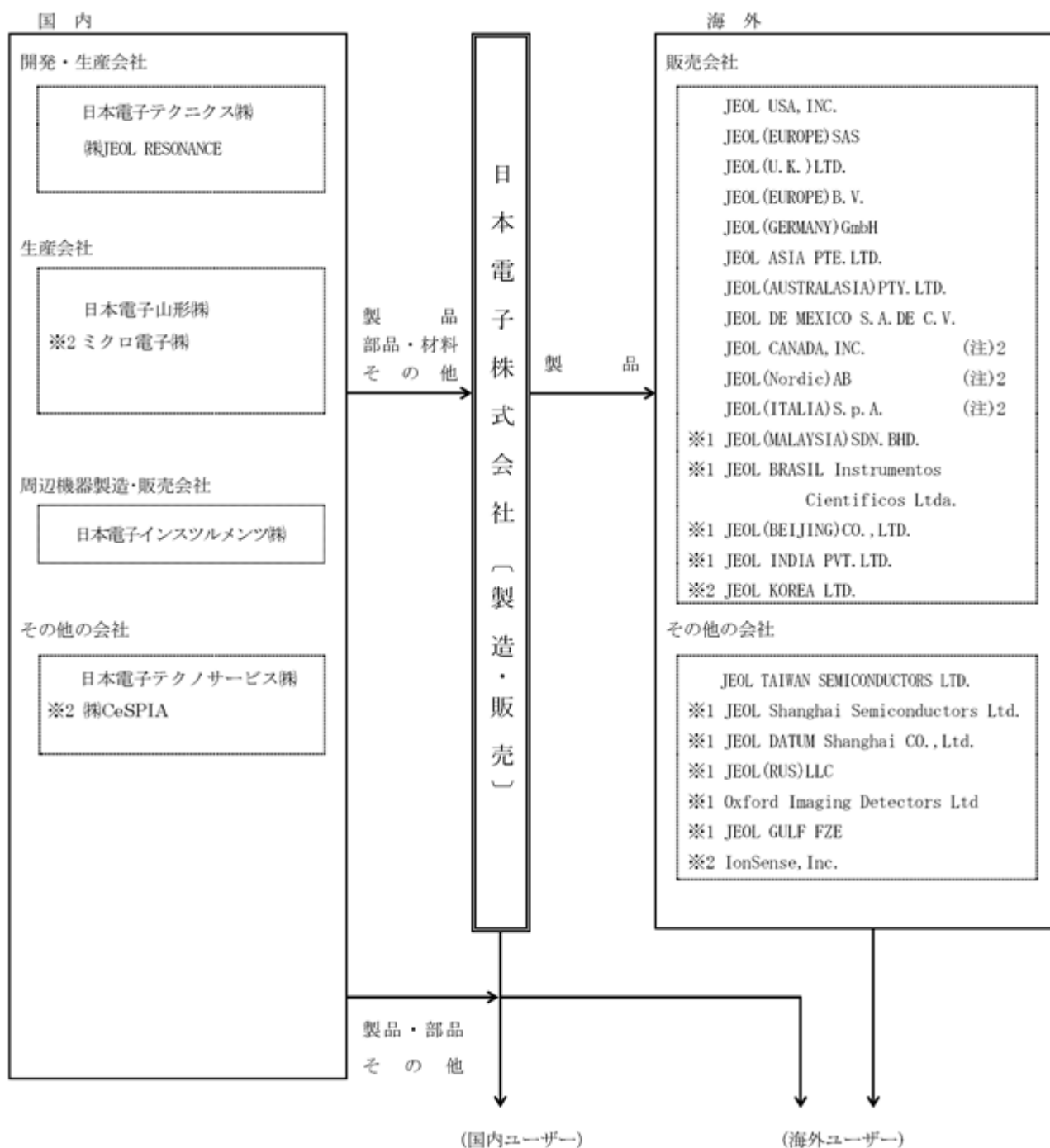
当社グループ（当社および当社の関係会社、以下同じ）は、当社、子会社26社および関連会社4社で構成され、電子光学機器、分析機器、計測検査機器、産業機器、医用機器の製造販売を主な内容とし、更にこれらに附帯する製品・部品の加工委託、保守・サービス、周辺機器の仕入販売を営んでおります。

当社グループの事業に係る位置付けは次のとおりであります。

なお、「第5 経理の状況 1.連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメント情報の区分は、電子光学機器、分析機器および計測検査機器を理科学・計測機器事業、産業機器を産業機器事業、医用機器を医用機器事業としております。

区分	主要製品	主要な会社
電子光学機器	透過電子顕微鏡、分析電子顕微鏡、電子プローブマイクロアナライザ、光電子分光装置、オージェマイクロプローブ、電子顕微鏡周辺機器	当社、日本電子山形(株)、日本電子インスツルメンツ(株) JEOL USA, INC.、JEOL(EUROPE)SAS、JEOL(U.K.)LTD.、JEOL(EUROPE)B.V.、JEOL(Nordic)AB、JEOL ASIA PTE.LTD.、JEOL(GERMANY)GmbH、JEOL(AUSTRALASIA)PTY.LTD.、その他13社(海外)
分析機器	核磁気共鳴装置、電子スピン共鳴装置、質量分析計(MALDI飛行時間質量分析計、ガスクロマトグラフ質量分析計、液体クロマトグラフ質量分析計)、ポータブルガスクロマトグラフ、ガスモニタ分析装置、X線CT微細構造解析システム	当社、(株)JEOL RESONANCE、日本電子インスツルメンツ(株) JEOL USA, INC.、JEOL(EUROPE)SAS、JEOL(U.K.)LTD.、JEOL(EUROPE)B.V.、JEOL(Nordic)AB、JEOL ASIA PTE.LTD.、JEOL(GERMANY)GmbH、JEOL(AUSTRALASIA)PTY.LTD.、その他10社(海外)
計測検査機器	走査電子顕微鏡、分析走査電子顕微鏡、電子顕微鏡周辺機器、複合ビーム加工観察装置、集束イオンビーム加工観察装置、薄膜試料作製装置、クロスセクションポリリッシャ、エネルギー分散形蛍光X線分析装置	当社、日本電子テクニクス(株)、日本電子山形(株)、日本電子インスツルメンツ(株) JEOL USA, INC.、JEOL(EUROPE)SAS、JEOL(U.K.)LTD.、JEOL(EUROPE)B.V.、JEOL(Nordic)AB、JEOL ASIA PTE.LTD.、JEOL(GERMANY)GmbH、JEOL(AUSTRALASIA)PTY.LTD.、その他13社(海外)
産業機器	電子ビーム描画装置(スポットビーム描画、可変成形ビーム描画)、直進形電子銃・電源、電子ビーム蒸着用電子銃・電源、プラズマ発生用高周波電源、内蔵形プラズマ銃・電源、高周波誘導熱プラズマ装置	当社、日本電子インスツルメンツ(株) JEOL USA, INC.、JEOL(EUROPE)SAS、JEOL(U.K.)LTD.、JEOL(EUROPE)B.V.、JEOL(Nordic)AB、JEOL ASIA PTE.LTD.、JEOL(GERMANY)GmbH、JEOL TAIWAN SEMICONDUCTORS LTD.、JEOL(AUSTRALASIA)PTY.LTD.、その他6社(海外)
医用機器	自動分析装置、臨床検査情報処理システム、全自動アミノ酸分析機	当社、日本電子山形(株)、日本電子インスツルメンツ(株) JEOL(EUROPE)SAS、JEOL(U.K.)LTD.

事業の系統図は次のとおりであります。



(注) 1. 無印 連結子会社

- 1 非連結子会社で持分法適用会社
- 2 関連会社で持分法適用会社

2. JEOL CANADA, INC.、JEOL (Nordic) ABおよびJEOL (ITALIA) S.p.A.は、重要性が増加したことから、当連結会計年度より持分法適用会社から連結子会社となっております。

#### 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 割合 (うち間接所有) (%)	関係内容
(連結子会社)					
日本電子テクニクス(株)	東京都昭島市	95	理科学・計測機器	100.0	当社製品の開発・製造 資金貸付、設備賃貸、役員 の兼任等
日本電子テクノサービス (株)	東京都昭島市	10	理科学・計測機器	100.0	当社製品関連の翻訳・設計 等、資金貸付、 設備賃貸、役員 の兼任等
日本電子山形(株)	山形県天童市	40	理科学・計測機器 医用機器	100.0	当社製品の製造 資金貸付、設備賃貸、役員 の兼任等
日本電子インスツルメン ツ(株)	東京都昭島市	20	理科学・計測機器 産業機器 医用機器	100.0	当社製品の製造 設備賃貸、役員 の兼任等
(株)JEOL RESONANCE	東京都昭島市	95	理科学・計測機器	100.0	当社製品の開発・製造、 資金貸付、設備賃貸、役員 の兼任等
JEOL USA, INC. (注)2,4	Peabody, MA USA	US \$ 15,060千	理科学・計測機器 産業機器	100.0	当社製品の販売、債務保証
JEOL(EUROPE)SAS	Croissy Sur Seine FRANCE	EUR 797千	理科学・計測機器 産業機器 医用機器	100.0	当社製品の販売、債務保証
JEOL(U.K.)LTD	Welwyn Garden City ENGLAND	Stg.£ 400千	理科学・計測機器 産業機器 医用機器	100.0	当社製品の販売、債務保証
JEOL(EUROPE)B.V.	Nieuw-Vennep THE NETHER-LANDS	EUR 1,472千	理科学・計測機器 産業機器	100.0	当社製品の販売、債務保証
JEOL(GERMANY)GmbH	Freising, GERMANY	EUR 520千	理科学・計測機器 産業機器	100.0	当社製品の販売、債務保証
JEOL ASIA PTE.LTD.	2 Corporation Road SINGAPORE	S. \$ 350千	理科学・計測機器 産業機器	100.0	当社製品の販売、資金貸付 債務保証
JEOL TAIWAN SEMICONDUCTORS LTD.	Hsin-Chu City 300, Taiwan, Republic of China	NT \$ 7,000千	理科学・計測機器 産業機器	100.0	当社製品の保守サービス
JEOL(AUSTRALASIA)PTY. LTD.	NSW 2086 Australia	A. \$ 500千	理科学・計測機器 産業機器	100.0 (100.0)	当社製品の販売、債務保証
JEOL DE MEXICO S.A.DE C.V.	Mexico D.F	MXN 650千	理科学・計測機器 産業機器	100.0 (100.0)	当社製品の販売、債務保証
JEOL CANADA, INC.	St-Hubert, QC CANADA	CAD 100千	理科学・計測機器 産業機器	100.0 (100.0)	当社製品の販売
JEOL(Nordic)AB	Sollentuna SWEDEN	SEK 3,160千	理科学・計測機器 産業機器	100.0 (100.0)	当社製品の販売
JEOL(ITALIA)S.p.A.	Basiglio ITALY	EUR 300千	理科学・計測機器 産業機器	100.0 (100.0)	当社製品の販売
(持分法適用関連会社)					
JEOL KOREA LTD.	Seoul KOREA	Won 600百万	理科学・計測機器 産業機器	40.0	当社製品の販売
その他3社					

(注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

2 特定子会社に該当します。

3 上記子会社のうちには有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

4 JEOL USA, INC.については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	12,925百万円
	経常利益	673 "
	当期純利益	391 "
	純資産額	2,659 "
	総資産額	7,679 "

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
理科学・計測機器事業	2,157
産業機器事業	289
医用機器事業	297
全社(共通)	265
合計	3,008

(注) 1 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含むほか、嘱託を含んでおります。)であります。

2 全社(共通)として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

### (2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,912	44.0	17.4	7,246,000

セグメントの名称	従業員数(人)
理科学・計測機器事業	1,272
産業機器事業	233
医用機器事業	285
全社(共通)	122
合計	1,912

(注) 1 従業員数は就業人員(当社からの出向者を除き、当社への出向者を含むほか、嘱託を含んでおります。)であります。

2 平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含んでおります。

3 全社(共通)として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

### (3) 労働組合の状況

当社グループには「JAM日本電子連合労働組合」があり、平成30年3月31日現在の組合員数は1,527名であります。

なお、労使関係については円滑な関係にあり、特記すべき事項はありません。



## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社は、「創造と開発」を基本とし、常に世界最高の技術に挑戦し、製品を通じて科学の進歩と社会の発展に貢献することを経営理念としております。創立以来の歴史の中で蓄積してきた要素技術・ノウハウ・グローバルネットワークを活かし、世界最高クラスの装置を提供する「分析・計測の世界において欠かせない企業」、さらには独自のソリューションと付加価値を提供するOnly One Companyとなることを目指しております。

#### (2) 経営戦略等

当社グループは、平成30年度を最終年度とする中期経営計画「Triangle Plan」（平成28年度～平成30年度）を策定しております。中期経営計画「Triangle Plan」では、前々期の中期経営計画「CHALLENGE 5」（平成22年度～平成24年度）における「経営構造改革」の成果および前中期経営計画「Dynamic Vision」における成長戦略を継承し、これまで推進してまいりましたYOKOGUSHI戦略を背景に、新たに“Speed”、“Difference”、“Change”の3つを更なる成長へのキーワードとして掲げ、成長戦略の深化・具現化により、適正な利益を継続的に創出することができる高収益中堅企業への変革を大目標としています。

#### (3) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

経営指標として、売上高営業利益率、売上高経常利益率、自己資本当期純利益率（ROE）、自己資本比率等を重視しております。

#### (4) 経営環境

我が国の経済状況は、政府の景気対策等の効果もあり、好調な企業業績、所得・雇用環境の安定、株価上昇などを背景として緩やかな回復基調で推移しました。一方、国際情勢においては米中貿易摩擦や米国政策運営の不透明感などが影を落としているものの、欧米の個人消費や設備投資の緩やかな回復、新興国における内需回復と輸出増加などに支えられ、世界経済は全体としては堅調に推移しました。

#### (5) 事業上および財務上の対処すべき課題

中期経営計画「Triangle Plan」は、これまで推進してまいりましたYOKOGUSHI戦略を背景に、新たに“Speed”、“Difference”、“Change”の3つを更なる成長へのキーワードとして掲げ、成長戦略の深化・具現化により、適正な利益を継続的に創出することができる高収益中堅企業への変革を大目標としています。

##### Speed

当社グループでは多様化する分析・計測ニーズに合致した新製品・ソリューションの市場導入や成長著しい新興国市場への経営資源投入をタイムリーに実施してまいりました。今後益々加速する市場の変化への対応力を強化すべく、オープンイノベーションを推進するとともに、中堅企業としてのメリットを最大限に活かし更なる“Speed”UPを実現いたします。

##### Difference

当社グループは、ハイスループットと操作性をハイエンドモデルで両立させた新世代の原子分解能分析電子顕微鏡JEM-ARM200F NEOARM、従来機よりさらに使いやすさを向上させた走査電子顕微鏡JSM-IT200、最小反応液量40μLでの超微量分析を可能にした生化学自動分析装置の新ブランドBioMajesty™ZEROシリーズ等、特徴のある競争力の高い製品を数多く投入しており、高い評価を頂いております。今後も市場が求める“Difference”を追求し、新しい付加価値を創出するために、製品開発力・ソリューション開発力強化に経営資源を投入し、Only One Companyを目指します。

##### Change

近年では分析・計測対象の複雑化・多様化に伴い、多面的な分析が求められています。このようなニーズの変化に対し、当社グループは、様々な分析・計測装置を有機的に活用したソリューション提案を積極的に推進いたしました。また、事業展開においては常に新しいビジネスモデルを検討し、結果数々のオープンイノベーションに取り組んでまいりました。

環境の変化を迅速に捉え、既存のビジネスモデルから一歩踏み出し成長に向けた挑戦を続けていくことで、中・長期的な企業の成長が達成できると考えています。Triangle Planの各セグメントでの目標達成と共に、成長に向けた自己変革“Change”に挑戦し将来の事業の柱を創出していきます。

当社グループは、引き続き、事業構造の変革と安定した収益構造の構築に努めるとともに、グループ一体となって環境保全に取組み、また、コンプライアンスの強化を図り、企業倫理を徹底し、良き企業風土を醸成して、持続的成長のための経営基盤の強化に努めてまいります。

#### (6) 株式会社の支配に関する基本方針について

当社は、当社の企業価値・株主共同の利益を確保し、または向上させることを目的として、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3項に掲げる事項)は次のとおりです。

##### **当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針**

当社は、公開会社として当社株式の自由な売買を認める以上、大規模な買付行為に応じて当社株式の売却を行うか否かは、最終的には当社株式を保有する株主の皆様判断に委ねられるべきものであると考えます。

しかしながら、大規模な買付行為またはこれに関する提案につきましては、当社株主の皆様が、当該買付者の事業内容、事業計画、過去の投資行動等から、当該買付行為または提案の企業価値および株主共同の利益への影響を慎重に判断する機会がなければ、株主の皆様が将来実現することのできる株主価値を毀損する結果となる可能性があります。

当社は、突然大規模な買付行為がなされたときに、買付者の提示する当社株式の取得対価の妥当性について株主の皆様が短期間の内に適切に判断するためには、買付者および当社取締役会の双方から適切かつ十分な情報が提供されることが不可欠であると考えます。

このような基本的な考え方に立ち、当社としましては、株主の皆様が適切に判断できるよう、当社が事前に設定する一定のルール(以下「大規模買付ルール」または「本ルール」といいます。)に従って、大規模買付行為を行う買付者が買付行為に関する必要かつ十分な情報を当社取締役会に事前に提供し、当社取締役会における一定の評価期間が確保されていることが必要であると考えております。

また、当該大規模買付行為が明らかに濫用目的によるものと認められ当社株主全体の利益を著しく損なうと判断されるときは、当社取締役会が大規模買付ルールに従って適切と考える措置をとることも必要であると考えております。

##### **当社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の会社の支配に関する基本方針の実現に資する特別な取組み**

当社は、「創造と開発」を基本とし、常に世界最高の技術に挑戦し、製品を通じて科学の進歩と社会の発展に貢献することを経営理念としております。創立以来の歴史の中で蓄積してきた要素技術・ノウハウ・グローバルネットワークを活かし、世界最高クラスの装置を提供する「分析・計測の世界において欠かせない企業」、さらには独自のソリューションと付加価値を提供するOnly One Companyとなることを目指しております。

中期経営計画「Triangle Plan」(平成28年度～平成30年度)では、前々期中期経営計画「CHALLENGE 5」(平成22年度～平成24年度)における「経営構造改革」の成果および前中期経営計画「Dynamic Vision」(平成25年度～平成27年度)における成長戦略を継承し、これまで推進してまいりましたYOKOGUSHI戦略を背景に、新たに「Speed」、「Difference」、「Change」の3つを更なる成長へのキーワードとして掲げ、成長戦略の深化・具現化により、適正な利益を継続的に創出することができる高収益中堅企業への変革を大目標としてまいります。

また、当社では、経営環境の変化に迅速に対応するため、経営のスリム化を図るべく、平成18年6月の定時株主総会において、取締役の人数(定款上の定員の上限)を適正化するとともに、経営の意思決定の迅速化、業務執行の効率化を図るため、「執行役員制度」を導入しています。さらに、法令遵守の徹底を図るため、業務監理室を設置するとともに、企業の社会的責任を重視して、社長を委員長とし、社外弁護士も参加するCSR委員会を設置し、コーポレートガバナンス体制の強化に向け取組んでおります。

##### **会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み**

当社は、平成28年6月28日開催の第69回定時株主総会において、当社株券等の大規模買付行為への対応方針(買収防衛策)(以下「本対応方針」といいます。)の継続をご承認いただきました。

本対応方針は、大規模買付行為に際して、株主の皆様が大規模買付者の提案に対して適切に判断できるよう、当社が事前に設定する大規模買付ルールに従って、大規模買付者が大規模買付行為に関する必要かつ十分な情報を当社取締役会に事前に提供し、かつ、当社取締役会における一定の評価期間の経過後に当該買付行為を開始するというものです。

大規模買付者が本ルールを遵守した場合には、取締役会は、当該買付提案についての評価意見を表明したり、代替案を提示することにより、株主の皆様判断に必要な情報を提供することとし、大規模買付者の買付提案に應じるか否かは、株主の皆様において、当該買付提案および取締役会が提示する当該買付提案に対する意見、代

替案等を考慮の上、判断していただくこととなります。以下に述べる例外的な場合を除き、当該大規模買付行為に対する対抗措置はとりません。

例外的な場合として、当該買付行為が明らかに濫用目的によるものと認められ、その結果として当社に回復し難い損害をもたらすなど、当社株主共同の利益を著しく損なうと判断される場合には、取締役会は、外部専門家等の助言を得ながら、独立委員会からの勧告を最大限尊重したうえで、株主の皆様の利益を守るために、適切と考える方策を取ることがあります。

一方、大規模買付者により、本ルールが遵守されなかった場合には、取締役会は、当社および株主共同の利益を守ることを目的として、新株予約権の発行等、会社法その他の法律および当社定款が認める対抗措置をとり、大規模買付行為に対抗する場合があります。対抗措置の発動については、外部専門家等の意見も参考にし、また独立委員会の勧告を最大限尊重し、取締役会が決定します。

具体的な対抗措置については、取締役会がその時点で最適と判断したものを選択することとします。株主への割当てまたは無償割当てにより新株予約権を発行する場合には、対抗措置としての効果を勘案した行使期間および行使条件を設けることがあります。

**本対応方針が会社の支配に関する基本方針に沿うものであり、株主共同の利益を損なうものではなく、会社役員**  
**の地位の維持を目的とするものではないことおよびその理由**

本対応方針は、大規模買付を行う場合の一定のルールを明確にするものであり、本対応方針導入の必要性、独立委員会の設置、大規模買付ルールの内容、大規模買付行為が為された場合の対応方針、株主・投資家の皆様に与える影響等を規定しています。

本対応方針は、大規模買付者が大規模買付行為を行う際には必要かつ十分な情報を当社取締役会に事前に提供し、取締役会による一定の評価期間が経過した後にのみ買付行為を開始できることとしています。さらに、大規模買付者がこれを遵守しない場合、または、大規模買付行為が当社株主共同の利益を著しく損なうものである場合には、大規模買付者に対して取締役会は株主共同の利益を守るために適切な対抗措置を講じることがあることを明記しています。

また、本対応方針そのものの導入・継続については、株主の皆様の承認をえることとしております。本対応方針の有効期限は3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとし、以後も同様とします。

なお、本対応方針は取締役会が対抗措置を発動する場合について事前かつ明確に開示しており、取締役会による対抗措置の発動は本対応方針の規定に則って実施されます。

また、取締役会が大規模買付行為について評価・検討を行う際や代替案を提示し、または対抗措置を発動する際には、外部専門家等の意見も参考にし、当社経営陣から独立した委員で構成される独立委員会に諮問し、同委員会の勧告を最大限尊重するものとしています。

このような観点から、本対応方針が基本方針に沿うものであり、株主共同の利益を損なうものではなく、当社役員

## 2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、当社グループの経営成績および財務状況等(株価等を含む)に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあり、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項を考えております。

なお、文中の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日(平成30年6月27日)現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 海外での事業活動について

当社グループは、海外市場の開拓を積極的に進めております。その結果、主な販売先である米国、欧州、中国、東南アジアの経済変動の影響を受けやすくなっております。また、当社グループはグローバルな事業展開のなかで、海外法人は現地社会との協調・相互信頼に努めておりますが、海外での事業活動では次のようなリスクがあり、当社グループの経営成績および財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

予期しえない法律・規制、不利な影響を及ぼす租税制度の変更  
テロ、戦争等による社会的混乱

### (2) 為替相場の変動について

当社グループの連結売上高の約5割は海外におけるものであり、当社グループは為替相場の変動に対処するために為替予約を中心とする為替変動リスクをヘッジする取引を必要に応じて行っていますが、中長期的な為替レートの変動は当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

### (3) 金利変動のリスクについて

当社グループは、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引(金利スワップ)をヘッジ手段として利用しておりますが、有利子負債の一部には、金利変動の影響を受けるものも含まれております。従って、金利上昇によって支払金利や調達コストが増加することにより、当社グループの経営成績および財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

### (4) 事業等のリスクについて

当社グループは、理科学・計測機器、産業機器および医用機器という3つの分野で事業を行っており、個々の事業には以下のような業績変動要因があります。

#### 理科学・計測機器事業

理科学・計測機器事業では、官公庁の研究開発予算や民間企業の設備投資の動向により需要が増減し、当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

#### 産業機器事業および医用機器事業

産業機器事業および医用機器事業では、市況の急激な変動による設備投資動向により、当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

### (5) 研究開発活動および人材育成について

当社グループは電子顕微鏡など最先端機器を世界市場で販売しており、グローバル市場での製品の競争力強化のため、新製品を継続的に投入しております。当社グループの事業では新製品を継続的に市場に投入していく必要があるため、研究開発が経営の重要なテーマとなっており、そのため、将来の企業成長は主に新製品の開発の成果に依存するというリスクがあります。

また、製品開発における人材確保や育成、また、大型装置の開発などでは多額の支出を行っても、それに必要な需要が確保できないリスク等があり、当社グループの企業成長および経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

### (6) 当社グループの売上高における第4四半期の割合が高いことによる影響について

当社グループの四半期別の売上高は、第4四半期が他の四半期に比べ高くなる傾向にあります。これは、官公庁や多くの民間企業において、年度末である3月に当社グループの製品の検収作業が行われることが多いからです。当社グループでは、この季節変動を考慮した計画策定を行い、当該時期の売上の維持・拡大に努めておりますが、製品の検収作業の遅延等により売上計上のタイミングが翌期にずれ込む等、当社グループの経営成績および財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

### (7) たな卸資産の廃棄、評価損について

当社グループは、製品や部品の品質・環境基準や在庫管理には充分留意しておりますが、市場動向、技術革新、製品のライフサイクル等の急激な変化に伴い、たな卸資産の廃棄および評価損の計上等を実施した場合には、当社グループの経営成績および財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

(8) 法的規制等について

当社グループは、国内の法的規制のほかに国際ルール、現地での労働法、税法、環境法など各国の法的規制などを受けており、また、事業・投資の許可や製品の品質における規格取得義務などがあり、これらの法的規制等により、当社グループの事業活動が制限される可能性があります。

(9) のれんについて

当社グループは、株式会社JEOL RESONANCEを連結子会社としたことに伴い、のれんを計上しております。当社グループは、当該のれんにつきましては、それぞれの事業価値および将来シナジー効果が発揮された結果得られる将来の収益力を適切に反映したものと考えておりますが、景気の悪化や業績が想定どおり進捗しない等の理由により収益性が低下した場合には、のれんの減損損失計上により、当社グループの経営成績および財政状況等に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 市場リスクについて

当社グループは、金融機関や販売または仕入に係る取引会社の株式を保有しているため、株式市場の価格変動リスクを負っております。株式の価格変動リスクについては特別のヘッジ手段を用いておりません。なお、時価に関する情報は「第5 経理の状況」の金融商品関係および有価証券関係の注記に記載しております。

(11) 重要な訴訟等について

当社グループは、国内および海外事業に関連して、訴訟、紛争、その他法律的手続きの対象となるリスクがあります。これらの法的リスクについては、本社および関係会社に対する法令遵守の徹底を図るとともに、経営の効率化を進めるために業務監理室を設置し、本社監理および関係会社監理を行うこととしております。また、社長を委員長とし、社外弁護士も参加する「CSR（企業の社会的責任）委員会」を設置しております。当連結会計年度において当社グループの事業に重大な影響を及ぼす訴訟は提起されていませんが、将来重要な訴訟等が提起された場合には当社グループの経営成績および財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

(12) 自然災害等の影響について

当社グループでは、災害・事故などの発生に備えたリスク管理として、生産拠点の分散化および事業継続計画（BCP）の策定等を実施しております。しかし、大地震などの大規模自然災害や火災などの突発的な事故が発生した場合は、生産設備などに多大な損害を被る可能性があり、操業の中断により出荷が遅れが生じ、また破損した建物や設備の復旧に多額の費用がかかる恐れがあります。このような場合、当社グループの経営成績および財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

### 3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社および持分法適用会社）の財政状態、経営成績およびキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概況は、次のとおりであります。

##### 財政状態および経営成績の状況

当連結会計年度における我が国の経済状況は、政府の景気対策等の効果もあり、好調な企業業績、所得・雇用環境の安定、株価上昇などを背景として緩やかな回復基調で推移しました。一方、国際情勢においては米中貿易摩擦や米国政策運営の不透明感などが影を落としているものの、欧米の個人消費や設備投資の緩やかな回復、新興国における内需回復と輸出増加などに支えられ、世界経済は全体としては堅調に推移しました。

このような状況下、当社グループは、中期経営計画「Triangle Plan」（平成28年度～平成30年度）に掲げる重点戦略を強力に推進し、企業価値の向上および経営基盤の強化を図るとともに受注・売上の確保に努めました。

この結果、当連結会計年度の財政状態および経営成績は以下のとおりとなりました。

##### a. 財政状態

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ5,719百万円増加し、114,764百万円となりました。

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ616百万円増加し、77,376百万円となりました。

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ5,102百万円増加し、37,387百万円となりました。

##### b. 経営成績

当連結会計年度の売上高は104,570百万円（前期99,698百万円に比し4.9%増）となりました。損益面におきましては、営業利益は3,928百万円（前期2,076百万円に比し89.2%増）、経常利益は4,363百万円（前期1,724百万円に比し153.0%増）、主に課税所得の増加に伴う繰延税金資産の計上による法人税等調整額929百万円計上（は益）もあり、親会社株主に帰属する当期純利益は4,532百万円（前期595百万円に比し660.5%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

##### 1) 理科学・計測機器事業

電子顕微鏡を中心とした引合いが好調に推移し、売上高は堅調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は68,480百万円（前期比3.0%増）となりました。

##### 2) 産業機器事業

電子ビーム描画装置および電子ビーム蒸着用電子銃・電源の受注・売上は引き続き好調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は16,707百万円（前期比44.5%増）となりました。

##### 3) 医用機器事業

国内向け生化学自動分析装置およびOEM供給先である富士レピオ向けの免疫分析装置の売上が好調に推移しました。一方、海外はOEM供給先であるシーメンスからの受注・売上が低い水準にとどまりました。

この結果、当事業の売上高は19,382百万円（前期比10.4%減）となりました。

##### キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は9,813百万円となり、前連結会計年度末に比べ393百万円増加しました。

当連結会計年度における各活動によるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において営業活動による資金の増加は6,524百万円（前期は573百万円の資金の減少）となりました。これは、売上債権の増加およびたな卸資産の増加により資金が減少した一方で、税金等調整前当期純利益の増加および仕入債務の増加等により資金が増加したためであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において投資活動による資金の増加は468百万円（前期は1,093百万円の資金の減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出があった一方で、関係会社株式の売却による収入および有形固定資産の売却による収入等により資金が増加したためであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において財務活動による資金の減少は7,512百万円（前期は289百万円の資金の減少）となりました。これは主に、借入金の返済による支出等によるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) (百万円)	前年同期比(%)
理科学・計測機器事業	74,074	13.3
産業機器事業	15,399	43.2
医用機器事業	18,279	10.8
合計	107,753	11.5

- (注) 1 金額は、販売価格で表示しております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
理科学・計測機器事業	73,243	10.1	25,148	23.4
産業機器事業	18,755	62.6	8,712	30.7
医用機器事業	19,576	6.2	3,746	5.5
合計	111,575	12.8	37,607	22.9

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

c. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) (百万円)	前年同期比(%)
理科学・計測機器事業	68,480	3.0
産業機器事業	16,707	44.5
医用機器事業	19,382	10.4
合計	104,570	4.9

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## (2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識および分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

### 重要な会計方針および見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づいて作成されています。この連結財務諸表の作成にあたっては、当連結会計年度における財務状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を与えるような見積り、予測を必要としております。当社グループは、過去の実績値や状況を踏まえ合理的と判断される前提に基づき、継続的に見積り、予測を行っております。そのため実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

なお、当社グループの連結財務諸表において採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

### 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識および分析・検討内容

#### a. 経営成績等

##### 1) 財政状態

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末から5,719百万円増加し114,764百万円となりました。主な要因としては、受取手形及び売掛金が3,561百万円増加およびたな卸資産が2,051百万円増加したこと等により流動資産が6,015百万円増加したことによります。

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末から616百万円増加し77,376百万円となりました。これは主に、借入金は減少したものの支払手形及び買掛金が4,778百万円増加したこと等によります。

当連結会計年度末の純資産合計は、親会社株主に帰属する当期純利益4,532百万円計上したことにより、前連結会計年度末に比べ5,102百万円増加し、37,387百万円となりました。以上の結果、当連結会計年度末の自己資本比率は前連結会計年度末から3.0ポイント増加し32.6%となりました。

##### 2) 経営成績の状況

当連結会計年度の売上高は、前連結会計年比の4.9%増の104,570百万円となりました。この要因としては、円安による為替の影響があったものの産業機器事業を中心に売上が増加したことが挙げられます。

損益面においては、営業利益3,928百万円(前期2,076百万円に比し89.2%増)、経常利益4,363百万円(前期1,724百万円に比し153.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益4,532百万円(前期595百万円に比し660.5%増)となりました。この要因としては、売上高増加および原価改善したことが挙げられます。この結果、営業利益は前期に比し1,852百万円増加し、前期に比し支払利息および為替差損が減少したこともあり経常利益は2,638百万円増加しました。

また、親会社株主に帰属する当期純利益は、主に課税所得の増加に伴う繰延税金資産の計上による法人税等調整額 929百万円計上(は益)もあり、前期に比し3,936百万円増加しました。

当社グループでは、理科学・計測機器事業で培った技術を軸として産業機器事業および医用機器事業をグローバルに展開しております。

理科学機器事業においては、国内の公的機関研究開発向けの売上が伸び悩む中、民間需要および中国向けの売上が堅調に推移しました。また、新製品投入効果により、受注および売上が増加しました。

産業機器事業においては、半導体市場が活況の中、電子ビーム描画装置が受注・売上也も好調に推移いたしました。また、電子銃電源も薄膜形成向け需要が堅調なこともあり、産業機器全体で売上および利益を大きく伸ばすことができました。

医用機器事業においては、海外OEM供給先であるシーメンスからの受注・売上が低い水準にとどまりました。一方、当社製品の試薬使用料・検体必要料の少なさおよびランニングコストでの優位性は引き続き競争優位性があり、国内向け生化学自動分析装置およびOEM供給先である富士レビオ向けの免疫分析装置の売上が好調に推移しました。

平成28年度から平成30年度を対象とする中期経営計画「Triangle Plan」は、これまで推進してまいりましたYOKOGUSHI戦略を背景に、新たに“Speed”、“Difference”、“Change”の3つを更なる成長へのキーワードとして掲げ、成長戦略の深化・具現化により、適正な利益を継続的に創出することができる高収益中堅企業への変革を大目標としています。



b. 経営成績に重要な影響を与える要因について

「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

資本の財源および資金の流動性についての分析

1) キャッシュ・フローの分析

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

2) 資金需要

当社グループの資金需要は、営業活動については、生産活動に必要な運転資金（材料・外注費および人件費等）、受注獲得のための販売費、製品競争力強化および新製品開発を目的とした研究開発費が主な内容であります。投資活動については、製造用治具設備および研究開発用設備への設備投資等が主な内容であります。

今後、成長分野に対しては必要な設備投資や研究開発投資等を継続していく予定です。

3) 財務政策

当社グループは、運転資金、投資資金についてはまず営業キャッシュ・フローで獲得した資金を投入し、不足分については有利子負債の調達を実施しております。

長期借入金、社債等の長期資金の調達については、事業計画に基づく資金需要、金利動向等の調達環境、既存借入金の償還時期等を考慮の上、調達規模、調達手段を適宜判断して実施していくこととしております。

また、資金調達コストの低減に努める一方、過度に金利変動リスクおよび為替変動リスクに晒されないよう、適切なヘッジ手段を検討・実施しております。

経営上の目標の達成・進捗状況

当社グループは、企業価値の向上と継続的な成長を確保するため、適正な利益を継続的に確保することを重点に置いております。このため、経営指標として、売上高営業利益率、売上高経常利益率、自己資本当期純利益率（ROE）、自己資本比率を重視しております。

当連結会計年度における売上高利益率は3.8%（対前期比1.7ポイント増）、売上高経常利益率は4.2%（対前期比2.5ポイント増）、自己資本当期純利益率（ROE）は13.0%（対前期比11.1ポイント増）、自己資本比率は32.6%（対前期比3.0ポイント増）となりました。

今後も引き続き当該指標の改善に邁進していく所存でございます。

#### 4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

#### 5【研究開発活動】

当社グループにおける研究開発活動は、グループ各社（主に当社、日本電子テクニクス(株)、(株)JEOL RESONANCE）間の緊密な連携の元に進められています。当社においては、中長期的な観点で選択された基盤的研究、各事業の核となる基幹製品の開発、および国立研究開発法人理化学研究所等の外部機関との共同研究を実施しております。日本電子テクニクス(株)は、卓上型および汎用型の走査電子顕微鏡の開発を担当しており、(株)JEOL RESONANCEは、核磁気共鳴装置の開発を担当しております。

当社グループは、「Triangle Plan」において、これまで推進してまいりましたYOKOGUSHI戦略を背景に、新たに“Speed”、“Difference”、“Change”の3つを更なる成長へのキーワードとして掲げ、成長戦略の深化・具現化により、適正な利益を継続的に創出することができる高収益中堅企業への変革を大目標としております。製品の研究開発活動においても全ての製品で開発スピードアップ、ハイスループット機能を向上させた製品開発力の強化、競合他社との違いを意識した製品開発力の強化に取り組んでおります。

当連結会計年度における事業の種類別セグメントの研究開発成果は次のとおりであり、研究開発費の総額は6,044百万円となっております。

##### (1) 理科学・計測機器事業

当セグメントに係る研究開発費は4,185百万円であります。

透過型電子顕微鏡においては、拡大する創薬、バイオ市場向けに、クライオ電子顕微鏡（JEM-Z200FSC）を発売開始いたしました。さらに、ハイエンド機種であるJEM-ARM200Fと低価格汎用機種のJEM-1400PLUSにおいても、操作性を向上させたJEM-ARM200F NEOARMとJEM-1400FLASHを新たに市場に投入しました。

走査電子顕微鏡においては、操作性とスループットに優れたJSM-IT500/JSM-7900Fを市場投入し、製品競争力の強化を図りました。

核磁気共鳴装置装置においては、当社が推進しております定量NMR法のJIS化が平成30年1月に実現しましたが、その機能を組み込んだ新ソフトウェアをMestrelab Research S.L.社と共同で開発しております。

##### (2) 産業機器事業

当セグメントに係る研究開発費は1,124百万円であります。

産業機器事業においては、市場での高い評価を得ているIMS社と協働で市場投入したマルチ電子ビーム描画装置について、生産性の向上を目指した投資を強化しております。また近年、注目を浴びている3Dプリンター分野において、金属材料用3Dプリンターへの電子ビーム技術の応用が期待されており、製品化を実現すべく平成26年4月に設立された技術研究組合である次世代3D積層造形技術総合開発機構に参画し、製品開発を実施しております。

##### (3) 医用機器事業

当セグメントに係る研究開発費は733百万円であります。

生化学自動分析装置は、最適なソリューション提供を目的として検査業務の迅速化と自動化を進めております。現行装置JCA-ZS050 自動分析装置 BioMajesty™ ZEROの拡販を通じ課題解決を図りながら、海外展開に向けた最適化を視野に投資を継続しております。さらに、今後の事業拡大の核となる免疫分析装置との連結機（FUXION<sub>+</sub>）については、品質向上と生産性向上を進め、競争力の大幅な向上を図っています。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度において実施した設備投資の総額は2,727百万円であります。

主な設備投資は、理科学・計測機器事業においては、製造用治具設備および研究開発用設備への投資を重点的に推進し1,938百万円の投資を行っております。産業機器事業においては、研究開発用機器の増強を中心に354百万円の投資を行っております。医用機器事業においては、研究開発用機器の増強を中心に283百万円の投資を行っております。また、全社資産の取得に150百万円の投資を行っております。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	工具・ 器具 及び備品	土地 (面積 千㎡)	リース 資産	その他	合計	
本社・昭島製作所 (東京都昭島市)	理科学・ 計測機器 産業機器 医用機器 全社資産	生産設備	3,537	3,105	521 (61)	414	700	8,279	1,433
東京支店・事務所 (東京都千代田区)	理科学・ 計測機器 産業機器 医用機器	販売設備	30	9	-	3	-	43	181
東京第二事務所 (東京都立川市)	理科学・ 計測機器 産業機器 医用機器	販売設備	2	1	-	-	-	3	90
筑波支店 (茨城県つくば市)	理科学・ 計測機器 産業機器 医用機器	販売設備	45	0	106 (1)	-	-	152	14
大阪支店 (大阪府大阪市淀川区)	理科学・ 計測機器 産業機器 医用機器	販売設備	28	16	-	2	-	47	59
寮および社宅地 (東京都昭島市)	全社資産	厚生設備	71	0	12 (1)	-	-	84	-

##### (2) 国内子会社

平成30年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
				建物及び 構築物	工具・ 器具 及び備品	土地 (面積 千㎡)	リース 資産	その他	合計	
日本電子テクニクス(株)	本社・昭島製作所 (東京都昭島市)	理科学・ 計測機器	生産設備	105	202	175 (3)	-	21	505	104
日本電子山形(株)	天童工場 (山形県天童市)	理科学・ 計測機器 医用機器	生産設備	880	75	249 (34)	-	37	1,243	78
(株)JEOL RESONANCE	本社・昭島製作所 (東京都昭島市)	理科学・ 計測機器	生産設備	10	184	-	-	15	210	171

(3) 在外子会社

平成30年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
				建物 及び 構築物	工具・ 器具及び 備品	土地 (面積 千㎡)	リース 資産	その他	合計	
JEOL USA, INC.	ボストン 事務所 (Peabody, M A U.S.A.)	理科学・ 計測機器 産業機器	販売設備	40	2	305 (21)	-	56	404	81
JEOL(EUROPE)SAS	パリ事務所 (Croissy Sur Seine FRANCE)	理科学・ 計測機器 産業機器 医用機器	販売設備	187	122	82 (7)	-	3	395	60
JEOL(U.K.)LTD.	ロンドン 事務所 (Welwyn Garden City ENGLAND)	理科学・ 計測機器 産業機器 医用機器	販売設備	126	-	171 (1)	-	8	306	39

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、機械装置及び運搬具、建設仮勘定の合計額であります。

なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2 提出会社の本社・昭島製作所の工具・器具及び備品の中には賃貸資産 106百万円が含まれております。

3 国内子会社の日本電子山形㈱・天童工場の設備には提出会社から建物及び構築物 880百万円、工具・器具及び備品 71百万円、土地249百万円、その他 37百万円の賃貸資産が含まれております。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、生産計画、需要予測、投資効率等を総合的に勘案し策定しております。設備計画は、原則的に連結会社各社が個別に策定しておりますが、グループ全体で重複投資とならないよう、提出会社を中心に調整を図っております。

なお、当連結会計年度末における重要な設備の新設の計画は次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定価額		資金調達 方法	着手および完了予定		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
日本電子㈱ 本社 昭島 昭島製作所	東京都 昭島市	理科学・ 計測機器 産業機器 医用機器	工場・ 建物設備	800	-	自己資金	平成30.4	平成31.3	僅少
日本電子㈱ 本社 昭島 昭島製作所	東京都 昭島市	理科学・ 計測機器 産業機器 医用機器	生産・製造 設備および 開発・設計 設備	1,600	-	自己資金	平成30.4	平成31.3	僅少

(注) 金額には消費税等を含まれておりません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

(注)平成30年6月27日開催の第71回定時株主総会において、当社普通株式について平成30年10月1日を効力発生日として2株を1株に株式併合する旨、発行可能株式総数は200,000,000株から100,000,000株に変更する旨の決議を行い、承認可決されております。

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年6月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	97,715,600	97,715,600	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株であります。
計	97,715,600	97,715,600	-	-

(注)平成30年6月27日開催の第71回定時株主総会において、株式併合の効力発生日である平成30年10月1日をもって、定款に定める単元株式数を1,000株から100株に変更する旨の決議を行い、承認可決されております。

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

( 3 ) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】  
該当事項はありません。

( 4 ) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年6月27日 (注)1	1,000	79,367,600	-	6,740	-	5,676
平成26年3月3日 (注)2	17,000,000	96,367,600	3,059	9,799	3,059	8,736
平成26年3月27日 (注)3	1,350,000	97,717,600	238	10,037	238	8,974
平成26年5月30日 (注)4	2,000	97,715,600	-	10,037	-	8,974

- (注) 1 平成25年6月27日付で第1種優先株式1,000株を取得後、同日付で消却したことに伴い、発行済株式総数および第1種優先株式数はそれぞれ1,000株減少しております。なお、これに伴う資本金および資本準備金の増減はありません。
- 2 平成26年3月3日を払込期日とする一般募集による増資により、発行済株式総数が9,000,000株（発行価額1株につき352.80円、発行価額の総額3,175百万円、資本組入額1株につき176.40円）、資本金が1,587百万円、資本準備金が1,587百万円それぞれ増加しております。  
また、同日を払込期日とする第三者割当による増資により、発行済株式総数が8,000,000株（発行価額1株につき368円、発行価額の総額2,944百万円、資本組入額1株につき184円）、資本金が1,472百万円、資本準備金が1,472百万円それぞれ増加しております。
- 3 平成26年3月27日を払込期日とするオーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資により、発行済株式総数が1,350,000株（発行価額1株につき352.80円、発行価額の総額476百万円、資本組入額1株につき176.40円、割当先は三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社）、資本金が238百万円、資本準備金が238百万円それぞれ増加しております。
- 4 平成26年5月30日付で第1種優先株式2,000株を取得後、同日付で消却したことに伴い、発行済株式総数および第1種優先株式数はそれぞれ2,000株減少しております。なお、これに伴う資本金および資本準備金の増減はありません。

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府および地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	42	24	125	142	1	4,539	4,873	-
所有株式数(単元)	-	35,509	949	18,290	22,837	1	19,995	97,581	134,600
所有株式数の割合(%)	-	36.39	0.97	18.75	23.40	0.00	20.49	100.00	-

(注) 自己株式1,087,451株は、「個人その他」に1,087単元および「単元未満株式の状況」に451株を含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ニコン	東京都港区港南2-15-3	8,600	8.90
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	8,151	8.44
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	6,050	6.26
OPPENHEIMER GLOBAL OPPORTUNITIES FUND (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	6803 S TUCSON WAY, CENTENNIAL, COLORADO, 80112 USA (東京都新宿区新宿6-27-30)	3,391	3.51
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	3,008	3.11
日本電子グループ従業員持株会	東京都昭島市武蔵野3-1-2	2,892	2.99
日本電子共栄会	東京都昭島市武蔵野3-1-2	2,661	2.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	東京都中央区晴海1-8-11	2,489	2.58
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG(FE-AC) (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2-7-1 決済事業部)	2,239	2.32
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6	2,084	2.16
計	-	41,566	43.02

- (注) 1 株式会社三菱東京UFJ銀行は平成30年4月1日付で株式会社三菱UFJ銀行へと銀行名が変更になっております。
- 2 平成29年12月18日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書に係る変更報告書において、大和住銀投信投資顧問株式会社が平成29年12月15日現在で以下のとおり株式を保有している旨が記載されているものの、当社として平成30年3月31日時点における実質所有株式数の確認ができておりませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書に係る変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株式等の数 (千株)	株式等保有割合 (%)
大和住銀投信投資顧問株式会社	東京都千代田区霞が関3 - 2 - 1	5,246	5.37

- 3 平成29年12月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書に係る変更報告書において、株式会社みずほ銀行およびその共同保有者2社が平成29年12月15日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨が記載されているものの、当社として平成30年3月31日時点における実質所有株式数の確認ができておりませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書に係る変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株式等の数 (千株)	株式等保有割合 (%)
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1 - 5 - 5	800	0.82
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町1 - 5 - 1	97	0.10
アセットマネジメントOne株式会社	東京都千代田区丸の内1 - 8 - 2	2,130	2.18

- 4 平成30年3月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書に係る変更報告書において、三井住友信託銀行株式会社およびその共同保有者2社が平成30年3月15日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨が記載されているものの、当社として平成30年3月31日時点における実質所有株式数の確認ができておりませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書に係る変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株式等の数 (千株)	株式等保有割合 (%)
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1 - 4 - 1	7,347	7.52
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	東京都港区芝3 - 33 - 1	189	0.19
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂9 - 7 - 1	502	0.51



(7)【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,087,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 96,494,000	96,494	-
単元未満株式	普通株式 134,600	-	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	97,715,600	-	-
総株主の議決権	-	96,494	-

(注) 「単元未満株式」欄には、当社保有の自己株式451株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日本電子株式会社	東京都昭島市武蔵野 3 - 1 - 2	1,087,000	-	1,087,000	1.11
計	-	1,087,000	-	1,087,000	1.11

( 8 ) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

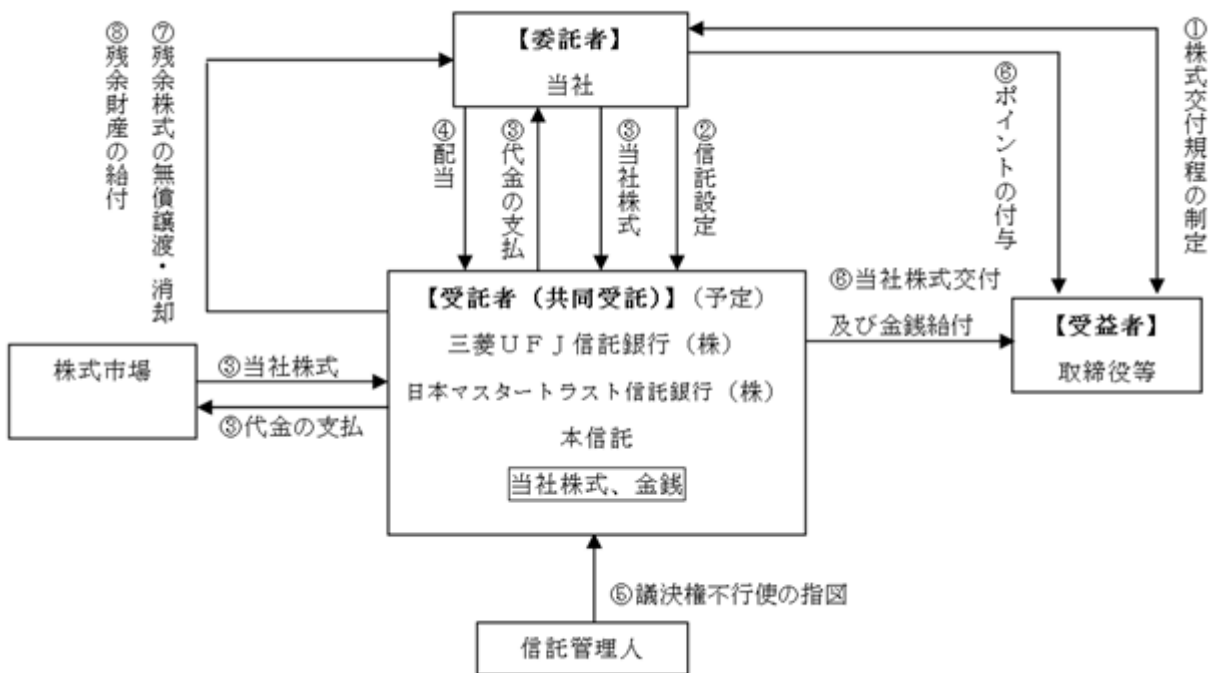
( 業績連動型株式報酬制度 )

当社は、平成30年6月27日開催の第71回定時株主総会(以下、「本株主総会」という。)において、当社取締役(社外取締役、非業務執行取締役および国外居住者を除く。)および当社と委任契約を締結している執行役員(国外居住者を除く。以下、取締役と併せて「取締役等」という。)へのインセンティブ・プランとして、平成30年度から業績連動型株式報酬制度(以下、「本制度」という。)を導入することを決議しました。

本制度は、当社の中長期的な業績の向上と企業価値の増大への貢献意識を高めることを目的とした、当社業績との連動性が高く、かつ透明性・客観性の高い役員報酬制度です。

制度の概要

本制度では、役員報酬B I P (Board Incentive Plan) 信託(以下「B I P 信託」という。)と称される仕組みを採用しています。B I P 信託とは、欧米の業績連動型株式報酬(Performance Share)制度および譲渡制限付株式報酬(Restricted Stock)制度と同種の役員に対するインセンティブ・プランであり、B I P 信託により取得した当社株式を業績目標の達成度等に応じて、役員の退任時に交付するものです。



当社は、取締役会において、本制度の内容に係る株式交付規程を制定します。

当社は、株主総会の承認決議の範囲内で、金銭を信託し、受益者要件を充足する取締役等を受益者とする信託（本信託）を設定します。

本信託は、信託管理人の指図に従い、で抛出された金銭を原資として、当社株式を当社（自己株式処分）または株式市場から取得します。本信託が取得する株式数は、本株主総会の承認決議の範囲内とします。

本信託内の当社株式に対する配当は、他の当社株式と同様に行われます。

本信託内の当社株式については、信託期間を通じ、議決権を行使しないものとします。

信託期間中、役員および毎事業年度における業績等に応じて、毎年、取締役等に一定のポイントが付与されます。一定の受益者要件を満たす取締役等は、原則として、取締役等の退任後に累積したポイント数の一定割合に相当する当社株式の交付を受け、残りの当該ポイント数に相当する当社株式については、信託契約の定めに従い、信託内で換価した上で換価処分金相当額の金銭を受領します。

業績目標の未達成等により、信託期間満了時に残余株式が生じた場合、信託契約の変更および追加信託を行うことにより本制度またはこれと同種のインセンティブ・プランとして本信託を継続利用するか、または、本信託から当社に当該残余株式を無償譲渡し、当社は取締役会決議によりその消却を行う予定です。

本信託の終了時に、受益者に分配された後の残余財産は、信託金から株式取得資金を控除した信託費用準備金の範囲内で当社に帰属する予定です。また、信託費用準備金を超過する部分については、当社および取締役等と利害関係のない団体への寄附を行う予定です。

#### 信託契約の内容

イ．信託の種類	特定単独運用の金銭信託以外の金銭の信託（他益信託）
ロ．信託の目的	取締役等に対するインセンティブの付与
ハ．委託者	当社
ニ．受託者	三菱UFJ信託銀行株式会社（予定） （共同受託者 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（予定））
ホ．受益者	取締役等のうち受益者要件を満たす者
ヘ．信託管理人	当社と利害関係のない第三者
ト．信託契約日	2018年8月27日（予定）
チ．信託の期間	2018年8月27日（予定）～2022年8月31日（予定）
リ．制度開始日	2018年8月27日（予定）
ヌ．議決権行使	行使しない
ル．取得株式の種類	当社普通株式
ヲ．信託金の上限額	9.6億円（予定）（信託報酬および信託費用を含む。）
ワ．株式の取得時期	2018年8月27日（予定）～2018年9月30日（予定） （なお、決算期（中間決算期、四半期決算期を含む。）末日以前の5営業日から決算期末日までを除く。）
カ．株式の取得方法	当社（自己株式処分）または株式市場より取得
コ．帰属権利者	当社
ク．残余財産	帰属権利者である当社が受領できる残余財産は、信託金から株式取得資金を控除した信託費用準備金の範囲内とします。

#### 信託・株式関連事務の内容

イ．信託関連事務	三菱UFJ信託銀行株式会社および日本マスタートラスト信託銀行株式会社が本信託の受託者となり、信託関連事務を行う予定です。
ロ．株式関連事務	三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社が事務委託契約書に基づき、受益者への当社株式の交付事務を行う予定です。

取締役等に取得させる予定の株式の総数の上限  
 1,720,000株

本制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

取締役等のうち受益者要件を充足する者

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	1,627	987,627
当期間における取得自己株式	372	358,627

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 ( - )	-	-	-	-
保有自己株式数	1,087,451	-	1,087,823	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社は、財務体質の改善と企業体質の強化に努め、長期的な視野に立って安定的な配当を継続して行うことを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、業績および財務状況等を勘案した結果、期末での配当を1株当たり4円50銭とすることを決定いたしました。この結果、当期の年間配当金は1株当たり8円となりました。

また、経営基盤の強化に向け、設備投資や戦略的商品の開発、成長の見込まれる事業分野への投資などに備えて、内部留保の充実に努めてまいります。

当社は、会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款に定めており、第71期の中間配当についての取締役会決議は平成29年11月10日に行っております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成29年11月10日 取締役会決議	338	3.50
平成30年6月27日 定時株主総会決議	434	4.50

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	585	645	836	610	1,006
最低(円)	345	317	494	350	488

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月
最高(円)	602	662	666	699	919	1,006
最低(円)	552	572	611	636	597	838

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員の状況】

男性 13名 女性 - 名 ( 役員のうち女性の比率 - % )

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(千株)
代表取締役社長	経営全般、経営戦略担当	栗原 権右衛門	昭和23年5月27日生	昭和46年4月 当社入社 平成12年4月 メディカル営業本部長 14年6月 取締役就任 16年4月 営業担当 16年6月 常務取締役に就任 17年4月 営業部門長 17年6月 専務取締役に就任 18年4月 分析機器事業担当 18年6月 取締役兼専務執行役員に就任 19年6月 代表取締役兼副社長執行役員に就任 20年6月 代表取締役社長に就任(現) 24年4月 経営全般(現)、経営戦略担当(現)	(注)4	44
取締役兼専務執行役員	営業・ブランドコミュニケーション・業務統括センター担当	福山 幸一	昭和34年7月31日生	昭和57年4月 当社入社 平成17年4月 経営戦略室長 18年4月 業務監理室長 18年6月 執行役員に就任 21年6月 取締役兼執行役員に就任 23年6月 取締役兼常務執行役員に就任 28年4月 営業担当(現)、ブランド戦略担当 28年6月 取締役兼専務執行役員に就任(現) 29年4月 ブランドコミュニケーション担当(現) 30年4月 業務統括センター担当(現)	(注)3	22
取締役兼専務執行役員	財務・IT・輸出貿易管理担当	二村 英之	昭和29年4月9日生	平成16年7月 ㈱東京三菱銀行(現㈱三菱UFJ銀行)タイ総支配人兼バンコック支店長 18年12月 ㈱三菱東京UFJ銀行(現㈱三菱UFJ銀行)国際コンプライアンス部長 21年4月 当社入社、財務本部理事 21年6月 常務執行役員に就任、財務担当 23年6月 取締役兼常務執行役員に就任 28年4月 財務・IT・輸出貿易管理担当(現) 28年6月 取締役兼専務執行役員に就任(現)	(注)3	17
取締役兼専務執行役員	経営企画担当	中村 温巳	昭和33年3月19日生	平成13年1月 ㈱ニコン、インストルメンツカンパニー製造部ゼネラルマネジャー 24年6月 同社執行役員、インストルメンツカンパニー事業企画部ゼネラルマネジャー兼バイオサイエンスマーケティング部ゼネラルマネジャー 26年6月 同社執行役員マイクロスコープ・ソリューション事業部長兼マーケティング部長 27年10月 同社執行役員マイクロスコープ・ソリューション事業部長 29年6月 当社取締役兼専務執行役員に就任、経営企画担当(現) ㈱ニコン顧問(現)	(注)3	1

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役兼専務執行役員	統括開発技術・知的財産・技術統括センター・アプリケーション統括室・開発・基盤技術センター・周辺機器、MS事業ユニット・3D積層造形事業化プロジェクト担当	田澤 豊彦	昭和32年1月9日生	昭和59年2月 当社入社 平成21年4月 SA事業ユニット長 23年6月 執行役員に就任 25年4月 開発・基盤技術センター・周辺機器事業ユニット担当(現)、SA、SM、IB事業ユニット・SA・SM設計室担当、IB事業ユニット長 25年6月 常務執行役員に就任 26年4月 MS事業ユニット担当(現)、EM事業ユニット担当 27年4月 技術統括センター担当(現)、Scanning系事業部門・設計統括・コストセンター担当 28年4月 アプリケーション統括室・3D積層造形事業化プロジェクト担当(現) 28年6月 取締役兼常務執行役員に就任 30年4月 統括開発技術・知的財産担当(現) 30年6月 取締役兼専務執行役員に就任(現)	(注)4	10
取締役兼常務執行役員	経営戦略室長	大井 泉	昭和39年1月9日生	昭和61年4月 当社入社 平成21年4月 SM事業ユニット長 24年4月 経営戦略室長(現) 25年6月 執行役員に就任 27年6月 取締役兼執行役員に就任 28年6月 取締役兼常務執行役員に就任(現)	(注)3	11
取締役兼常務執行役員	総務担当、業務監理室長	関 敦司	昭和34年9月13日生	昭和58年4月 当社入社 平成21年10月 総務本部副本部長兼人事部統括部長兼採用研修グループ長 24年4月 総務本部長 26年6月 執行役員に就任 27年4月 業務監理室長(現) 30年4月 総務担当(現) 30年6月 取締役兼常務執行役員に就任(現)	(注)4	8
社外取締役	-	長久保 敏	昭和22年4月23日生	平成13年6月 日商岩井(株)(現双日(株))執行役員 15年6月 日商岩井プラント機器(株)(現双日マシナリー(株))代表取締役社長 21年6月 双日マシナリー(株)取締役会長 24年10月 当社顧問に就任 27年1月 HRコンサルタント(株)代表取締役社長(現) 28年6月 当社社外取締役に就任(現)	(注)4	3



役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
社外取締役	-	中尾 浩 治	昭和22年 2月 8日生	平成19年 6月 22年 6月 23年 5月 25年 4月 25年 8月 30年 6月	テルモ(株)取締役専務執行役員 同社取締役副社長執行役員 同社代表取締役会長 (一社)日本医療機器産業連合会会長 (一社)ジャパンバイオデザイン協会理事(現) 当社社外取締役に就任(現)	(注) 4	-
常勤監査役	-	若 狭 崇	昭和31年 8月29日生	昭和55年 4月 平成20年 4月 22年 4月 23年 4月 24年 4月 25年 4月 27年 4月 27年 6月	当社入社 営業統括本部副本部長 営業ソリューション統括本部長 環境・計測本部長 ソリューションビジネス本部長 営業戦略本部長 業務監理室理事 常勤監査役に就任(現)	(注) 5	4
常勤監査役	-	福 島 一 則	昭和32年 8月 1日生	昭和55年 4月 平成22年 4月 23年 4月 25年 6月 27年 4月 28年 4月 28年 6月	当社入社 事業ユニット業務センター長 技術統括センター長 執行役員に就任 ブランド戦略副担当 業務監理室理事 常勤監査役に就任(現)	(注) 6	7
社外監査役	-	後 藤 明 史	昭和21年11月26日生	昭和48年 2月 48年 3月 53年 7月 55年 5月 平成25年 1月 25年 6月	弁護士登録 長島・大野法律事務所(現長島・大野・常松法律事務所)入所 米国ロサンゼルス市マナット・フェルプス&フィリップス法律事務所入所 後藤法律事務所開設 当社社外監査役(仮監査役)に就任 当社社外監査役に就任(現)	(注) 7	3
社外監査役	-	黒 岩 法 夫	昭和27年 9月26日生	平成13年 4月 13年 4月 14年 5月 15年 6月 16年 4月 18年 6月 30年 6月	(株)三菱東京フィナンシャル・グループ(現(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ)リスク統括部長 (株)東京三菱銀行(現(株)三菱UFJ銀行)経営企画室長(特命) 同行総合リスク管理室長 同行執行役員総合リスク管理室長 (株)三菱東京フィナンシャル・グループ執行役員リスク統括部長 京王電鉄(株)常勤監査役(現)(平成30年6月28日退任予定) 当社社外監査役に就任(現)	(注) 8	-
計							130

- (注) 1 取締役 長久保 敏および中尾浩治は、社外取締役であります。  
2 監査役 後藤明史および黒岩法夫は、社外監査役であります。  
3 平成29年 6月28日開催の定時株主総会の終結の時から 2年間であります。  
4 平成30年 6月27日開催の定時株主総会の終結の時から 2年間であります。  
5 平成27年 6月25日開催の定時株主総会の終結の時から 4年間であります。  
6 平成28年 6月28日開催の定時株主総会の終結の時から 4年間であります。  
7 平成29年 6月28日開催の定時株主総会の終結の時から 4年間であります。  
8 平成30年 6月27日開催の定時株主総会の終結の時から 4年間であります。

- 9 当社は、平成30年6月27日開催の第71回定時株主総会において、法令に定める監査役の員数を欠くこととなる場合に備え、補欠監査役1名を選任いたしました。補欠監査役の略歴は以下のとおりであります。なお、補欠監査役 中西和幸は、社外監査役の要件を満たしております。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
中西和幸	昭和42年6月16日生	平成7年4月 弁護士登録、田辺総合法律事務所入所(現) 平成19年4月 第一東京弁護士会総合法律研究所会社法研究部会長 平成22年5月 (株)レナウン社外取締役 平成24年6月 オーデリック(株)社外監査役 平成29年6月 (株)VAZ社外監査役(現) 平成29年10月 金融庁企業会計審議会監査部会臨時委員(現) 平成30年3月 (株)グローバル・リンク・マネジメント社外取締役(監査等委員)(現)	-

- 10 当社では、平成18年6月29日より執行役員制度を導入いたしました。平成30年6月27日現在の執行役員は20名で構成され、取締役を兼務していない執行役員は、次の14名です。

常務執行役員	医用機器事業部長	齋藤 進
常務執行役員	米国支配人	矢口 勝基
常務執行役員	Scanning系事業部門長兼EM事業ユニット長	大藏 善博
常務執行役員	品質保証担当	福田 浩章
常務執行役員	業務統括センター副担当、フィールドソリューション事業部長	土方 康郎
常務執行役員	IE事業ユニット担当、SE事業部門長	駒形 正
執行役員	JEOL USA, INC.取締役社長、JEOL DE MEXICO S.A.DE C.V.取締役社長、JEOL CANADA, INC.取締役社長	Peter Genovese
執行役員	生産担当、サプライチェーンセンター長	高橋 充
執行役員	欧州支配人	小林 彰宏
執行役員	科学・計測機器営業本部担当、ブランドコミュニケーション副担当	大久保 忠
執行役員	サプライチェーンセンター副センター長	矢塚慎太郎
執行役員	メディカル新事業担当、医用機器事業部副事業部長	藤野 清孝
執行役員	Scanning系事業部門EP事業ユニット長	金山 俊克
執行役員	SE事業部門SE技術本部長	脇本 治

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、安定した利益体質の構築を図り、企業価値を高め、将来にわたり発展・成長していくという経営の基本方針を実現するため、経営上の組織体制を整備するなどの諸施策を実施し、経営の効率性、透明性を高め、株主をはじめとするステークホルダーの方々の立場を尊重し、その責任を果たしていくことをコーポレート・ガバナンスの基本としています。

#### 企業統治の体制

##### イ．企業統治の体制の概要および当該企業統治の体制を採用する理由

当社は監査役制度を採用しており、取締役会と監査役会により、業務執行の監督および監査を行っております。

経営環境の変化に迅速に対応するため、取締役の人数（定款上の定員の上限）の適正化など経営のスリム化を図り、さらに、経営の意思決定の迅速化、業務執行の効率化を図るため、執行役員制度を導入しております。

監査役には財務および会計に関する相当程度の知見を有する者がおり、さらに社外監査役は経営から独立した立場から、取締役会への出席をはじめとして関係会社および支店の監査、取締役の職務の執行を監査する等、当社のガバナンス体制は監査役による監督機能を十分に果たせる仕組みが構築されております。

なお、当事業年度開催の取締役会は17回、経営会議は52回、経営執行会議は10回、監査役会は9回それぞれ開催しております。

平成18年4月からマネジメント会議の見直しの一環として、従来の常務会を経営会議に変更し、より実効性のあるスピーディーな事業運営ができる体制をとっております。

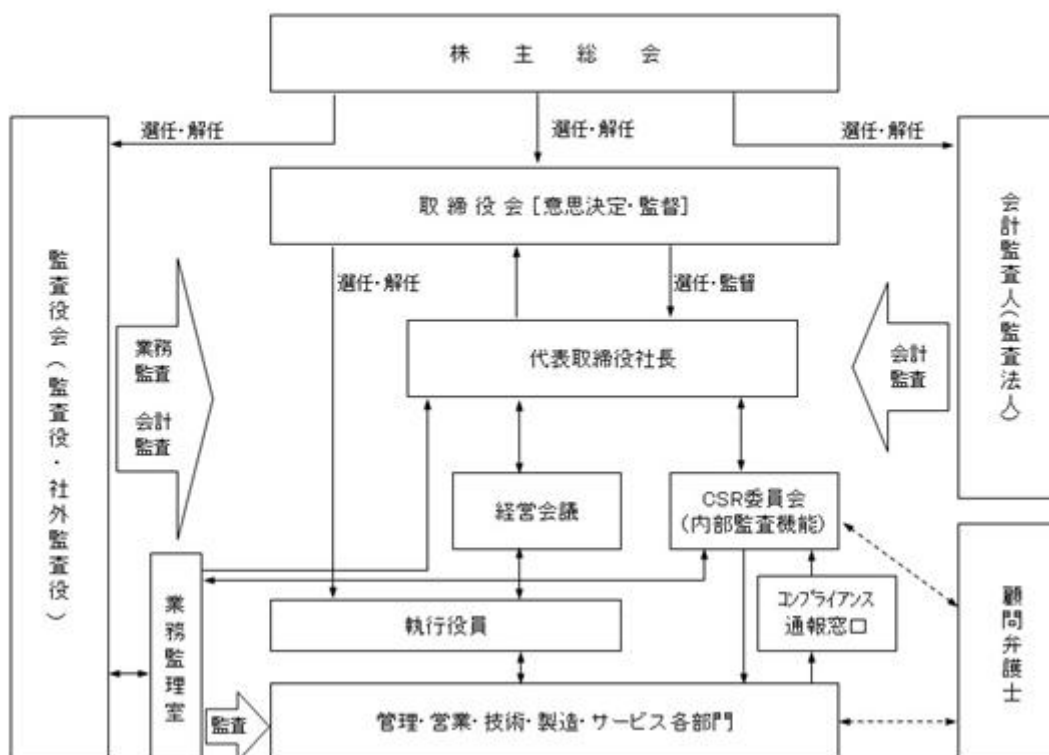
また、平成30年4月から会社の社会的責任を重視した社会貢献、コンプライアンス、リスクマネジメントについて、社長を委員長とし、社外弁護士も参加する「CSR委員会」を設置し、その推進、強化に努めており、内部統制、リスクマネジメントに係る委員会ならびに内部監査部門、JGMSおよびMDQMSからの報告を受け、CSR活動に対する諮問・提案を行うとともに取締役会に報告を行うこととしております。

さらに、「業務監理室」にJGMSおよびMDQMSを除く内部監査機能を集約しております。

会社の機関は平成30年6月27日現在、取締役は9名（うち2名は社外取締役）、監査役は4名（うち2名は社外監査役）で構成されております。

当社のコーポレート・ガバナンスに関連する機関は下図のとおりです。

## コーポレートガバナンス体制についての模式図



### □．内部統制システムの整備の状況

取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務ならびに当社および子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）についての決定内容および当該体制の運用状況の概要は以下のとおりであります。

#### ．内部統制システムの概要

##### 1 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

- (1) 取締役会の行った決定に関する文書（職務執行に関する文書を含む）については、文書管理規定（保存期間原則10年）に基づき、厳重に保存し、検索しやすい方法で管理している。
- (2) 上記文書の閲覧・謄写・提出については、取締役および監査役の要請に対しては、速やかにこれに応じている。

##### 2 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

損失の危険の管理を専ら行う体制として、すでに、以下のとおりコンプライアンス管理規定を定め、コンプライアンス通報窓口を設けるとともに、J G M S（JEOL Group Management System）およびM D Q M S（Medical Devices Quality Management System）を運用し、さらに安全衛生委員会、危機管理委員会、輸出管理委員会、情報セキュリティ委員会およびB C P（事業継続計画）推進委員会を設置している。

- (1) コンプライアンス管理規定を定め、コンプライアンス態勢の確立、適正な事業運営と健全な発展を図っている。
- (2) コンプライアンス管理規定に基づいて、「日本電子企業倫理行動規範」を制定し、社外に公開するとともに、役員、従業員が法令等を遵守し社会倫理に従って行動するように努めている。
- (3) コンプライアンス通報規定に基づいて、コンプライアンス通報窓口を設け、不正行為等の早期発見と是正に努めている。
- (4) 製品の品質管理の維持向上のため、J G M SおよびM D Q M Sを運用し、内部監査・外部監査に堪え得る管理体制を敷いている。
- (5) 安全衛生委員会は、労働安全衛生法および安全衛生管理規定に基づいて、総括安全衛生管理者を長とし、そのもとに各部門安全衛生委員をおき、労働者の危険、健康障害の防止その他事業者のなすべき法定事項の実施に努めている。
- (6) 危機管理委員会は、非常事態に対する予測を絶えず行い、これに備え、事態発生に対処することとしている。
- (7) 輸出管理委員会は、安全保障輸出管理規則に基づいて、外国為替および外国貿易法等の法令の遵守に努めている。
- (8) 情報セキュリティ委員会は、情報セキュリティポリシーに基づいて、ネットワークと情報・データの可用性・完全性・機密性の確保に努めている。

- (9) B C P (事業継続計画) 推進委員会は、予測可能な範囲で、大規模な事故や災害等に備えて、事業継続計画を定め、実効性のある取組みを推進している。
- 3 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- (1) 経営環境の変化に迅速に対応するため、取締役の人数(定款上の定員の上限)の適正化など経営のスリム化を図り、さらに、経営の意思決定の迅速化、業務執行の効率化を図るため、「執行役員制度」を導入している。
- (2) 定例の取締役会は、従来どおり、毎月1回開催し、重要事項の決定と各担当取締役からの業務執行の状況の報告を行っている。これ以外にも、必要に応じ臨時に取締役会を招集している。また、取締役会全体の実効性について自己評価アンケート方式による分析・評価を行い、その結果の概要を開示することとしている。
- (3) より実効性のあるスピーディな意思決定と事業運営ができる体制とするため、適切なメンバーによる「経営会議」を設け、絞り込んだテーマにつき検討を行っている。
- 4 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
- (1) 取締役および使用人に対し、法令・定款の遵守の徹底を機会あるごとに、取締役会、諸会合その他で強調している。また、業務執行中に生じた法令・定款上の疑義について集中的に相談・検討に応じる体制をとっている。
- (2) 会社の社会的責任を重視した社会貢献、コンプライアンス、リスクマネジメントについて、社長を委員長とし、社外弁護士も参加する「CSR委員会」を設置し、その推進、強化に努めており、内部統制、リスクマネジメントに係る委員会ならびに内部監査部門、JGMSおよびMDQMSからの報告を受け、CSR活動に対する諮問・提言を行うとともに取締役会に報告を行うこととしている。
- (3) 「業務監理室」にJGMSおよびMDQMSを除く内部監査機能を集約している。
- 5 当社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制  
(当社に親会社はない)
- (1) 当社および関係会社からなるグループの運営については、グループ全体の重要方針・基本戦略の共有・浸透の場として「JEO Lグループ経営会議」を適時に開催している。
- (2) 関係会社の経営については、その自主性を尊重しつつ、それぞれの業務内容の当社への定期的な報告と重要案件についての当社との事前協議が行われている。このためグループ各社の総務・財務担当者との「関係会社アドミ会議」を定期的で開催し、グループの一体的運営の強化に努めている。
- (3) 企業グループ各社による法令遵守の徹底を図り、経営効率化を進めるため、「国内関係会社に対する内部監査規定」に即して関係会社監査を実施している。さらに、海外については、年2回開催される東京ミーティングにおいて、ヒアリング等を通して意思疎通を図っている。
- 6 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項  
監査役を補助する部署として「業務監理室」を設置し、監査役を補助すべき常勤スタッフを置いている。
- 7 前項の使用人の取締役からの独立性に関する事項および監査役の前項の使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項  
上記スタッフの就退任は、取締役と監査役の意見交換に基づいて行っており、職務の独立性については、周知徹底し、監査役の指示の実効性を確保している。
- 8 取締役等が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
- (1) 取締役は、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実があることを発見したときは監査役会に報告しなければならないこと(会社法第357条)、および使用人も同様に監査役会に報告しなければならないことを、周知徹底している。
- (2) 子会社の取締役、監査役および使用人またはこれらの者から報告を受けた者は、前号に準じて監査役会に報告しなければならないことを、第5項の「JEO Lグループ経営会議」や「関係会社アドミ会議」を通じ、周知徹底している。
- 9 前項の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制  
監査役が前項の報告を受けた場合、報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けることがないよう、周知徹底している。
- 10 監査役を補助する部署として「業務監理室」を設置し、監査役を補助すべき常勤スタッフを置いている。
- 10 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項  
監査役が、その職務の執行について生ずる費用の前払または償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項  
監査役が、その職務の執行について生ずる費用の前払または償還等の請求をしたときは、当該監査役の職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。
- 11 その他監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項  
監査役が、その職務の執行について生ずる費用の前払または償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項  
監査役が、その職務の執行について生ずる費用の前払または償還等の請求をしたときは、当該監査役の職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。
- 11 その他監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項  
監査役が、その職務の執行について生ずる費用の前払または償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項  
監査役が、その職務の執行について生ずる費用の前払または償還等の請求をしたときは、当該監査役の職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。

・反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方およびその整備状況

- 1 当社は、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体に対して一切の関係を遮断し、不当、不法な要求に対しては毅然とした姿勢で臨み、決してかかる要求に応じないこととしている。
- 2 警察当局、関係団体などと連携し、反社会的勢力および団体に関する情報の収集、管理を行っている。

・財務報告の信頼性と適正性を確保するための体制

当社は、当社および関係会社の財務報告の信頼性と適正性を確保するため、「日本版SOX法監査委員会」を設置しており、金融商品取引法およびその他関係法令等が求める財務報告の信頼性と適正性を確保するための内部統制を構築・運用し、定期的に評価している。

内部統制システムの運用状況の概要

- 1 内部統制につきましては、内部統制システムの整備および運用状況のモニタリングを実施し、取締役会がその内容を確認している。
- 2 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制の運用状況は、以下のとおりである。
  - (1) CSR委員会の機能を強化し、CSR委員会は、内部統制、リスクマネジメントに係る委員会ならびに内部監査部門、JGMSおよびMDQMSからの報告を受け、CSR活動に対する諮問・提言を行うとともに取締役会に報告を行うこととした。
  - (2) 内部監査機能を強化し、「業務監理室」にJGMSおよびMDQMSを除く内部監査機能を集約することとし、内部統制システムの強化を図った。
- 3 損失の危険の管理に関する規程その他の体制の運用状況の概要は、以下のとおりである。
  - (1) JGMSの運用に関し、JGMSマネジメントレビューを適宜実施した。
  - (2) MDQMSの運用に関し、MDQMSマネジメントレビューおよび薬機法安全管理委員会を適宜開催した。
  - (3) 労働安全衛生法に基づき、安全衛生委員会を適宜開催した。
  - (4) 危機管理委員会は、テロ、事故または自然災害等の非常事態が発生した際には、その都度、情報収集、安否確認および注意喚起を行った。
  - (5) 輸出管理委員会を適宜開催するとともに、輸出管理内部規程(CP)に基づく教育を実施した。
  - (6) 情報セキュリティ委員会を適宜開催するとともに、情報セキュリティに関する教育を実施した。
  - (7) コンプライアンス通報窓口が通報または相談を受けた場合には、通報者に対する不利益な取扱いを禁止し、適正に処理する仕組みを確保した。
  - (8) BCP(事業継続計画)推進委員会を適宜開催し、事業継続計画の更新を適宜行うとともに、訓練を実施した。

八．内部監査および監査役監査、会計監査の状況

当社および関係会社に対する法令遵守の徹底を図ると共に経営効率化を進めるため、「国内関係会社に対する内部監査規定」に即して関係会社監査を実施しております。さらに、海外については、年2回開催される東京ミーティングにおいて、ヒアリング等を通して意思疎通を図っております。また、内部監査機能を強化し、業務監理室(所属人員4名)を設置し、本社監理および関係会社監理を行うと共に、監査役の補佐を行い、監査役との連携をとっております。

なお、常勤監査役福島一則氏は、当社の執行役員を歴任するなど、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

社外監査役後藤明史氏は、弁護士であって、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

社外監査役黒岩法夫氏は、(株)東京三菱銀行(現(株)三菱UFJ銀行)の執行役員および(株)三菱東京フィナンシャル・グループ(現(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ)の執行役員を歴任するなど、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

会計監査については有限責任監査法人トーマツを選任し、監査役および業務監理室と相互に連携をとりながら監査を実施しております。

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人名
指定有限責任社員 業務執行社員 岡田吉泰	有限責任監査法人トーマツ
指定有限責任社員 業務執行社員 大村広樹	有限責任監査法人トーマツ

会計監査業務に係る補助者の構成	
公認会計士	4名
その他(注)	12名

(注) その他は、公認会計士試験合格者等であります。

二．社外取締役および社外監査役との関係

社外取締役は2名であります。社外取締役長久保敏氏は、HRコンサルタント㈱の代表取締役社長であり、当社と同社の間では、業務委託契約を締結していましたが、業務委託料は多額の金銭に該当せず、また、同氏が社外取締役に選任されたので、当該契約を解約いたしました。また、社外取締役中尾浩治氏との人的関係、資本的关系または取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役は2名であり、社外監査役との人的関係、資本的关系または取引関係その他の利害関係はありません。

社外のチェックという観点からは、社外取締役および社外監査役を選任することにより、経営の監視機能の面では十分に機能する体制が整っていると考えております。

社外監査役は、有限責任監査法人トーマツおよび業務監理室相互に連携をとりながら監査を実施しております。

なお、当該社外取締役および社外監査役を選任している理由は以下のとおりです。

氏名	当該社外取締役および社外監査役を選任している理由
長久保 敏	同氏は、豊富な経歴および経験と見識を備え、取締役会の意思決定が妥当なものであるかどうかにつき厳正な判断のできる人材として、客観性、中立性を重視して、選任しました。 同氏は、HRコンサルタント㈱の代表取締役社長であり、当社と同社の間では、業務委託契約を締結していましたが、業務委託料は多額の金銭に該当せず、また、同氏が社外取締役に選任されたので、当該契約を解約いたしました。 以上のことから一般株主と利益相反の生じるおそれがないと判断いたします。
中尾浩治	同氏は、豊富な経歴および経験と見識を備え、取締役会の意思決定が妥当なものであるかどうかにつき厳正な判断のできる人材として、客観性、中立性を重視して、選任しました。
後藤明史	同氏は、弁護士であって、経営者の職務遂行が適法なものであるかどうかにつき厳正な判断のできる人材として、客観性、中立性を重視して選任いたしました。
黒岩法夫	同氏は、豊富な経歴および経験と監査能力を備え、経営者の職務遂行が妥当なものであるかどうかにつき厳正な判断のできる人材として、客観性、中立性を重視し、社外監査役に選任いたしました。同氏は㈱三菱UFJ銀行を退職後10年以上が経過し、その後は当社と直接取引関係がない企業の監査役を歴任しております。 なお、当社の社外監査役としての選任にあたり、同行からの斡旋を受けた経緯はありません。 また、当社は同行からの借入金および私募債（社債）の残高があり、また同行の当社に対する持株比率は約3.1%ありますが、当社は複数の金融機関と取引をしております。当社の総資産に対する借入金の比率は約18%であり、うち同行からの借入金は借入金全体の約26%であることから、当社への影響度は希薄であります。 以上のことから一般株主と利益相反の生じるおそれがないと判断いたします。

また、社外取締役長久保敏および中尾浩治の両氏ならびに社外監査役後藤明史および黒岩法夫の両氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

ホ．社外取締役または社外監査役を選任するための独立性に関する基準または方針の内容

当社は、会社法に定める社外性要件および金融商品取引所が定める独立性基準を充たし、かつ豊富な経験、高い見識に基づいて、取締役会での議論に貢献できる方を選定しております。

リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制は、法規の遵守などコンプライアンスについて、経営戦略室、業務監理室、輸出貿易管理室、総務本部、財務本部、IT本部、知的財産戦略本部、品質保証室などが連携を密にした対応を行うとともに、関連する各委員会での活動により、社内啓蒙、意識向上に努めております。また、CSR委員会は、内部統制、リスクマネジメントに係る委員会ならびに内部監査部門、JGMSおよびMDQMSからの報告を受け、CSR活動に対する諮問・提言を行うとともに取締役会に報告を行うこととしております。グループ経営に沿った社規定や各委員会等の整備を図り、「コンプライアンス管理規定」および「日本電子企業倫理行動規範」の制定、「情報セキュリティポリシー」の遵守による個人情報の保護、コンプライアンス通報窓口の設置、事業継続計画（BCP）の制定、取組みの推進などにもグループを挙げて対応しております。

さらには「行動指針」の徹底を当社社員に図り、企業倫理を浸透させ、良き企業風土の醸成のための「KF活動（より良い企業風土を目指した活動）」を引き続き展開しております。

役員報酬等の内容

イ．提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役(社外取締役を除く)	219	219	-	-	-	8
監査役(社外監査役を除く)	38	38	-	-	-	2
社外役員	24	24	-	-	-	4

(注) 1．取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

2．上記のほか、平成29年6月28日開催の第70回定時株主総会決議に基づき、役員退職慰労金を下記のとおり支給しております。

退任取締役 1名 24百万円

ロ．提出会社の役員区分ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ．役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社の役員報酬の基本方針は以下のとおりです。

[役員報酬の基本方針]

・当社の役員報酬は、経営目標達成の動機づけと中長期的な業績向上および企業価値増大への貢献意識を高め、株主との利益意識の共有や株主重視の経営意識を高める制度となるよう設計しております。

[報酬水準の考え方]

・当社を取り巻く経営環境、従業員の給与水準や同業他社の水準等を考慮し、業績向上に向けた適切なインセンティブとなるよう設定します。

[報酬構成]

・取締役の報酬は、「基本報酬」と「業績連動型株式報酬」により構成します。

「基本報酬」…役位・会社の業績・個々の職責および実績に応じた金銭報酬とします。

「業績連動型株式報酬」…中長期的な会社の業績や潜在的リスクを反映させ、健全な企業家精神の発揮に資する株式報酬制度とします。制度内容は「第4 1(8) 役員・従業員株式所有制度の内容」に記載のとおりです。

なお、役員退職慰労金制度は平成30年6月27日開催の第71回定時株主総会終結の時をもって廃止しております。



株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外であるものの銘柄数および貸借対照表計上額の合計額  
38銘柄 7,747百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額および保有目的  
前事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)トプコン	600,000	1,195	取引関係の維持強化
(株)島津製作所	447,000	790	取引関係の維持強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,086,000	759	取引関係の維持強化
(株)エイアンドティー	765,000	632	取引関係の維持強化
みらかホールディングス(株)	100,000	512	取引関係の維持強化
三菱電機(株)	250,000	399	取引関係の維持強化
オリンパス(株)	91,200	390	取引関係の維持強化
フォスター電機(株)	147,900	282	取引関係の維持強化
(株)日本マイクロニクス	193,400	191	取引関係の維持強化
(株)タチエス	76,000	168	取引関係の維持強化
(株)アルバック	30,000	155	取引関係の維持強化
パナソニック(株)	114,229	143	取引関係の維持強化
サクサホールディングス(株)	599,000	128	取引関係の維持強化
(株)マイスターエンジニアリング	175,000	120	取引関係の維持強化
オイレス工業(株)	55,728	114	取引関係の維持強化
(株)テクノ菱和	119,020	112	取引関係の維持強化
東京海上ホールディングス(株)	23,170	108	取引関係の維持強化
(株)リョーサン	30,000	100	取引関係の維持強化
(株)山形銀行	171,000	82	取引関係の維持強化
(株)八十二銀行	110,000	69	取引関係の維持強化
(株)トクヤマ	124,000	66	取引関係の維持強化
(株)めぶきフィナンシャルグループ	142,740	63	取引関係の維持強化
(株)東和銀行	447,000	52	取引関係の維持強化
(株)山梨中央銀行	92,000	45	取引関係の維持強化
協栄産業(株)	164,000	26	取引関係の維持強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	104,000	21	取引関係の維持強化
三菱製鋼(株)	88,000	21	取引関係の維持強化
東海カーボン(株)	42,800	20	取引関係の維持強化
(株)武蔵野銀行	6,000	19	取引関係の維持強化

みなし保有株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)ニコン	500,000	807	退職金給付に備えるための信託財産であり、議決権行使に関する指図権限を保有している。

- (注) 1 特定投資株式の(株)山形銀行以下11銘柄については、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ではありませんが、特定投資株式とみなし保有株式を合わせて上位30銘柄について記載しております。
- 2 みなし保有株式は退職給付信託に設定しているものであり、「貸借対照表計上額」欄には当事業年度末日における時価に議決権行使の指図権限の対象となる株式数を乗じて得た額を記載しております。

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)島津製作所	447,000	1,337	取引関係の維持強化
(株)トプコン	600,000	1,246	取引関係の維持強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,086,000	756	取引関係の維持強化
(株)エイアンドティー	765,000	718	取引関係の維持強化
三菱電機(株)	250,000	425	取引関係の維持強化
みらかホールディングス(株)	100,000	415	取引関係の維持強化
フォスター電機(株)	147,900	384	取引関係の維持強化
オリンパス(株)	91,200	368	取引関係の維持強化
(株)日本マイクロニクス	193,400	221	取引関係の維持強化
(株)アルバック	30,000	179	取引関係の維持強化
パナソニック(株)	114,229	173	取引関係の維持強化
(株)マイスターエンジニアリング	175,000	169	取引関係の維持強化
(株)タチエス	76,000	144	取引関係の維持強化
サクサホールディングス(株)	59,900	126	取引関係の維持強化
オイレス工業(株)	55,728	126	取引関係の維持強化
(株)リョーサン	30,000	115	取引関係の維持強化
東京海上ホールディングス(株)	23,170	109	取引関係の維持強化
(株)テクノ菱和	119,020	98	取引関係の維持強化
(株)トクヤマ	24,800	83	取引関係の維持強化
(株)山形銀行	34,200	80	取引関係の維持強化
東海カーボン(株)	42,800	70	取引関係の維持強化
(株)八十二銀行	110,000	62	取引関係の維持強化
(株)東和銀行	44,700	62	取引関係の維持強化
(株)めびきフィナンシャルグループ	142,740	58	取引関係の維持強化

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)山梨中央銀行	92,000	40	取引関係の維持強化
協栄産業(株)	16,400	32	取引関係の維持強化
三菱製鋼(株)	8,800	21	取引関係の維持強化
(株)武蔵野銀行	6,000	20	取引関係の維持強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	104,000	19	取引関係の維持強化

みなし保有株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)ニコン	500,000	948	退職金給付に備えるための信託財産であり、議決権行使に関する指図権限を保有している。

(注) 1 特定投資株式の(株)テクノ菱和以下12銘柄については、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下であります。特定投資株式とみなし保有株式を合わせて上位30銘柄について記載しております。

2 みなし保有株式は退職給付信託に設定しているものであり、「貸借対照表計上額」欄には当事業年度末日における時価に議決権行使の指図権限の対象となる株式数を乗じて得た額を記載しております。

責任限定契約の内容の概況

当社と社外取締役および各社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額としております。

取締役の定数

当社の取締役は9名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

イ．自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

ロ．中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

ハ．取締役および監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役(取締役であった者を含む。)および監査役(監査役であった者を含む。)の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役および監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

株主総会の特別決議の要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	54	-	54	-
連結子会社	-	-	-	-
計	54	-	54	-

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

当社の連結子会社4社は、当社の会計監査人である有限責任監査法人トーマツと同一のネットワークに属しているデロイトトウシュートーマツリミテッドのメンバーフォームに対して、監査証明業務等による報酬を支払っております。

当連結会計年度

同上

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は、代表取締役が監査役会の同意を得て定める旨を定款に定めております。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、連結財務諸表を適正に作成できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、監査法人等が主催する研修会への参加並びに会計専門書の定期購読を行っております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	10,165	9,939
受取手形及び売掛金	26,779	5 30,340
商品及び製品	10,309	11,622
仕掛品	27,484	27,945
原材料及び貯蔵品	1,505	1,784
繰延税金資産	1,616	2,362
未収還付法人税等	195	142
未収消費税等	1,450	1,328
その他	1,092	1,160
貸倒引当金	473	484
流動資産合計	80,126	86,141
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	2 21,988	2 22,264
減価償却累計額	3 15,758	3 16,211
建物及び構築物(純額)	2 6,229	2 6,053
機械装置及び運搬具	2 3,757	2 4,085
減価償却累計額	3 2,724	3 2,913
機械装置及び運搬具(純額)	2 1,032	2 1,171
工具、器具及び備品	18,835	20,367
減価償却累計額	3 15,402	3 16,439
工具、器具及び備品(純額)	3,432	3,928
土地	2 1,789	2 1,806
リース資産	3,702	2,801
減価償却累計額	3 3,014	3 2,321
リース資産(純額)	687	479
建設仮勘定	292	158
有形固定資産合計	13,464	13,597
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	329	270
リース資産	85	55
のれん	2,496	2,126
その他	121	175
無形固定資産合計	3,032	2,628
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1, 2 9,179	1, 2 9,276
繰延税金資産	355	370
その他	2,823	2,706
貸倒引当金	7	7
投資その他の資産合計	12,351	12,345
固定資産合計	28,849	28,571
<b>繰延資産</b>		
社債発行費	69	50
繰延資産合計	69	50
資産合計	109,045	114,764

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,064	5 22,842
短期借入金	2 11,143	2 9,615
1年内償還予定の社債	676	576
リース債務	436	359
未払金	1,664	2,049
未払法人税等	354	773
未払消費税等	407	341
繰延税金負債	61	0
前受金	7,011	7,956
賞与引当金	995	1,274
その他	6,300	5 7,215
流動負債合計	47,115	53,004
固定負債		
社債	5,386	5,160
長期借入金	2 12,594	2 8,048
リース債務	630	329
繰延税金負債	4	139
役員退職慰労引当金	167	151
退職給付に係る負債	10,265	9,906
資産除去債務	332	332
その他	263	304
固定負債合計	29,644	24,372
負債合計	76,760	77,376
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,037	10,037
資本剰余金	9,386	9,386
利益剰余金	13,977	17,832
自己株式	537	538
株主資本合計	32,863	36,717
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,121	3,736
繰延ヘッジ損益	5	3
為替換算調整勘定	1,519	1,382
退職給付に係る調整累計額	2,185	1,687
その他の包括利益累計額合計	578	669
純資産合計	32,284	37,387
負債純資産合計	109,045	114,764

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	99,698	104,570
売上原価	1 64,823	1 67,080
売上総利益	34,875	37,490
販売費及び一般管理費		
研究開発費	3 6,129	3 6,044
その他	2 26,668	2 27,517
販売費及び一般管理費合計	32,798	33,561
営業利益	2,076	3,928
営業外収益		
受取利息	33	19
受取配当金	128	168
受取保険金	158	57
受託研究収入	150	287
持分法による投資利益	166	133
その他	221	293
営業外収益合計	859	959
営業外費用		
支払利息	366	226
売上債権売却損	19	12
為替差損	586	176
その他	239	110
営業外費用合計	1,211	525
経常利益	1,724	4,363
特別利益		
固定資産売却益	4 313	4 222
投資有価証券売却益	244	-
関係会社株式売却益	-	291
その他	1	-
特別利益合計	560	514
特別損失		
固定資産売却損	5 0	5 8
固定資産除却損	6 7	6 5
和解金	-	66
その他	1	-
特別損失合計	9	81
税金等調整前当期純利益	2,274	4,796
法人税、住民税及び事業税	1,015	1,193
法人税等調整額	663	929
法人税等合計	1,678	264
当期純利益	595	4,532
親会社株主に帰属する当期純利益	595	4,532



【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
当期純利益	595	4,532
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	607	615
繰延ヘッジ損益	5	2
為替換算調整勘定	297	53
退職給付に係る調整額	125	497
持分法適用会社に対する持分相当額	160	82
その他の包括利益合計	1,279	1,1247
包括利益	875	5,779
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	875	5,779
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	10,037	9,386	14,057	536	32,944
当期変動額					
剰余金の配当			676		676
親会社株主に帰属する当期純利益			595		595
自己株式の取得				1	1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	-	-	80	1	81
当期末残高	10,037	9,386	13,977	537	32,863

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	2,514	-	1,061	2,310	857	32,086
当期変動額						
剰余金の配当					-	676
親会社株主に帰属する当期純利益					-	595
自己株式の取得					-	1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	607	5	458	125	279	279
当期変動額合計	607	5	458	125	279	198
当期末残高	3,121	5	1,519	2,185	578	32,284

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	10,037	9,386	13,977	537	32,863
当期変動額					
剰余金の配当			676		676
親会社株主に帰属する当期純利益			4,532		4,532
自己株式の取得				0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	-	-	3,855	0	3,854
当期末残高	10,037	9,386	17,832	538	36,717

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	3,121	5	1,519	2,185	578	32,284
当期変動額						
剰余金の配当					-	676
親会社株主に帰属する当期純利益					-	4,532
自己株式の取得					-	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	615	2	136	497	1,247	1,247
当期変動額合計	615	2	136	497	1,247	5,102
当期末残高	3,736	3	1,382	1,687	669	37,387

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	2,274	4,796
減価償却費	2,525	2,668
のれん償却額	369	369
賞与引当金の増減額（は減少）	157	272
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	125	58
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	22	16
固定資産除売却損益（は益）	305	208
投資有価証券売却損益（は益）	244	-
関係会社株式売却損益（は益）	-	291
持分法による投資損益（は益）	166	133
受取利息及び受取配当金	162	187
支払利息	366	226
売上債権売却損	19	12
売上債権の増減額（は増加）	897	3,187
たな卸資産の増減額（は増加）	832	3,161
仕入債務の増減額（は減少）	3,258	4,378
未払又は未収消費税等の増減額	614	57
前受金の増減額（は減少）	889	330
その他	60	1,471
小計	962	7,454
利息及び配当金の受取額	169	196
利息の支払額	368	228
売上債権売却による支払額	19	12
法人税等の支払額又は還付額（は支払）	1,318	885
営業活動によるキャッシュ・フロー	573	6,524
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額（は増加）	5	470
投資有価証券の売却による収入	418	-
関係会社株式の売却による収入	-	946
有形固定資産の取得による支出	2,514	1,562
有形固定資産の売却による収入	1,182	661
無形固定資産の取得による支出	104	150
その他	70	103
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,093	468
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額（は減少）	4,532	2,221
長期借入れによる収入	8,900	800
長期借入金の返済による支出	6,318	4,652
社債の発行による収入	3,354	397
社債の償還による支出	650	726
自己株式の取得による支出	1	0
配当金の支払額	676	676
その他	366	432
財務活動によるキャッシュ・フロー	289	7,512
現金及び現金同等物に係る換算差額	340	190
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,296	328
現金及び現金同等物の期首残高	11,717	9,420
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	721
現金及び現金同等物の期末残高	19,420	19,813

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 17社

連結子会社名

日本電子テクニクス(株)  
日本電子テクノサービス(株)  
日本電子山形(株)  
日本電子インストルメンツ(株)  
(株)JEOL RESONANCE  
JEOL USA, INC.  
JEOL (EUROPE) SAS  
JEOL (U.K.) LTD.  
JEOL (EUROPE) B.V.  
JEOL ASIA PTE. LTD.  
JEOL (GERMANY) GmbH  
JEOL TAIWAN SEMICONDUCTORS LTD.  
JEOL (AUSTRALASIA) PTY. LTD.  
JEOL DE MEXICO S.A. DE C.V.  
JEOL CANADA, INC.  
JEOL (Nordic) AB  
JEOL (ITALIA) S.p.A.

なお、JEOL CANADA, INC.、JEOL (Nordic) ABおよびJEOL (ITALIA) S.p.A.は、重要性が増したことから、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

JEOL (MALAYSIA) SDN. BHD.  
JEOL Shanghai Semiconductors Ltd.  
JEOL DATUM Shanghai Co., Ltd.  
JEOL BRASIL Instrumentos Cientificos Ltda.  
JEOL (BEIJING) CO., LTD.  
JEOL (RUS) LLC  
JEOL INDIA PVT. LTD.  
Oxford Imaging Detectors Ltd  
JEOL GULF FZE

(連結範囲から除いた理由)

非連結子会社9社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)および利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

## 2 持分法の適用に関する事項

### (1) 持分法適用の非連結子会社数 9社

#### 主要な会社名

JEOL(MALAYSIA)SDN.BHD.  
JEOL Shanghai Semiconductors Ltd.  
JEOL DATUM Shanghai Co.,Ltd.  
JEOL BRASIL Instrumentos Cientificos Ltda.  
JEOL(BEIJING)CO.,LTD.  
JEOL(RUS)LLC  
JEOL INDIA PVT.LTD.  
Oxford Imaging Detectors Ltd  
JEOL GULF FZE

なお、JEOL CANADA, INC.、JEOL(Nordic)ABおよびJEOL(ITALIA)S.p.A.は、重要性が増したことから、当連結会計年度より連結子会社を含めております。

また、北京創成技術有限公司は株式売却により、当連結会計年度から持分法適用の範囲から除外しております。

### (2) 持分法適用の関連会社数 4社

#### 会社名

JEOL KOREA LTD.  
ミクロ電子(株)  
(株)CeSPIA  
IonSense, Inc.

### (3) 持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

## 3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、JEOL DE MEXICO S.A.DE C.V.(12月31日)を除き、当社の連結決算日と同一であります。

なお、JEOL DE MEXICO S.A.DE C.V.については、同社の決算日現在の財務諸表を使用して連結決算を行っております。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

## 4 会計方針に関する事項

### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

#### 有価証券

#### その他有価証券

##### 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

##### 時価のないもの

移動平均法による原価法

#### デリバティブ

#### 時価法

#### たな卸資産

#### 商品及び製品

主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

ただし、在外子会社は主として個別法に基づく低価法

#### 仕掛品

主として個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

#### 原材料及び貯蔵品

主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

主として定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物	7～65年
工具、器具及び備品	2～15年

無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法、これ以外の無形固定資産については定額法を採用しております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

長期前払費用

定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員（年俸制対象者を除く）の賞与の支給に備えるため、当社および国内連結子会社は支給見込額基準により計上しております。

役員退職慰労引当金

当社および国内連結子会社は、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

ただし、当社の取締役会決議により当社は、役員退職金規定について平成22年4月以降の適用を凍結することといたしました。このため平成22年4月以降の新たな繰入は行っておりません。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年～12年）にわたり均等償却しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用の会計処理方法

未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債および退職給付費用の計算に退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産および負債は、各社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益および費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、金利スワップ取引については特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段：為替予約取引および金利スワップ取引

ヘッジ対象：製品輸出に係る外貨建予定取引、社債および長期借入金の利息

ヘッジ方針

当社グループは、企業経営の基本理念である堅実経営に則り、外貨取引のうち、当社グループに為替変動リスクが帰属する場合において、その為替リスクヘッジのため、実需原則に基づき海外売上計画作成時に為替予約取引を行うものとしております。

社債および借入金の金利変動リスクを回避し、キャッシュ・フローを固定化する目的で金利スワップ取引を行うものとしております。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつヘッジ開始時およびその後も継続して、相場変動を相殺するものと想定することができるため、ヘッジの有効性の判定は省略しております。

特例処理によっている金利スワップ取引については、有効性の判定は省略しております。

(7) のれんの償却方法および償却期間

のれんの償却については、その投資効果のおよぶ期間（10年間）の均等償却を行っております。ただし、金額が僅少な場合は発生年度に全額償却しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税および地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税および地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

繰延資産の処理方法

社債発行費

社債の償還までの期間にわたり定額法により償却しております。



(未適用の会計基準等)

当社および国内連結子会社

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会( IASB )及び米国財務会計基準審議会( FASB )は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、平成26年5月に「顧客との契約から生じる収益」( IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606 )を公表しており、IFRS第15号は平成30年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は平成29年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

平成34年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり  
ます。

在外連結子会社

- ・ IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」

(1) 概要

本会計基準等により、企業は約束した財又はサービスが顧客に移転された時点で、当該財又はサービスと交換に権利を得ると見込む対価を反映した金額で、収益を認識することが求められます。そのため、現行基準に比べ多くの判断および見積りが必要となります。判断や見積りには契約における履行義務の識別、取引価格に含まれる変動対価の見積り、取引価格の各履行義務への配分が含まれます。

(2) 適用予定日

平成31年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

当該会計基準等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり  
ます。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社および関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
投資有価証券(株式)	2,308百万円	1,527百万円

2 担保資産および担保付債務

(1) 担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
建物及び構築物	3,295百万円	3,147百万円
機械装置及び運搬具	0 "	3 "
土地	535 "	535 "
投資有価証券	2,580 "	3,192 "
計	6,411百万円	6,878百万円

上記に対応する債務

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	2,726百万円	3,529百万円
長期借入金	7,250 "	4,385 "
計	9,976百万円	7,914百万円

(2) (1)のうち工場財団抵当として担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
建物及び構築物	3,223百万円	3,077百万円
機械装置及び運搬具	0 "	3 "
土地	515 "	515 "
計	3,738百万円	3,596百万円

上記に対応する債務

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	45百万円	2,565百万円
長期借入金	6,685 "	4,135 "
計	6,730百万円	6,700百万円

3 減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。

## 4 保証債務

前連結会計年度 (平成29年3月31日)		当連結会計年度 (平成30年3月31日)	
JEOL(MALAYSIA)SDN.BHD.の前受金(2,773千MYR)	70百万円	JEOL(MALAYSIA)SDN.BHD.の前受金(846千MYR)	23百万円
JEOL INDIA PVT.LTD.の前受金(112,700千INR)	194 "	JEOL INDIA PVT.LTD.の前受金(183,581千INR)	302 "
JEOL(BEIJING)CO.,LTD.の借入金(218,263千JPY)および前受金(16,599千JPY)	234 "	JEOL(BEIJING)CO.,LTD.の借入金(1,500千US\$)	159 "
計	500百万円	計	485百万円

## 5 連結会計年度末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
受取手形	-	16百万円
支払手形	-	2,827 "
その他(設備支払手形)	-	36 "

## 6 当社は資金調達の機動性を高めるため、(株)三菱UFJ銀行をアレンジャーとする計6行の銀行との間に融資枠(コミットメントライン)を設定しております。

なお、当連結会計年度末における当該融資枠に基づく借入の実行状況は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
借入枠	9,000百万円	9,000百万円
借入実行残高	-	-
差引借入未実行残高	9,000百万円	9,000百万円

## 7 財務制限条項

提出会社の平成24年6月8日締結のコミットメントライン契約には、下記の財務制限条項が付されております。

対象決算期の末日における連結貸借対照表における純資産の部の金額

対象決算期直前の決算期の末日における連結貸借対照表における純資産の部の金額

平成24年3月に終了する決算期の末日における連結貸借対照表における純資産の部の金額 14,388百万円  
が または のいずれか大きい方の75%の金額以上であること。

(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	297百万円	334百万円

- 2 販売費および一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
給料手当	10,043百万円	10,497百万円
賞与引当金繰入額	352 "	453 "
退職給付費用	511 "	509 "
役員退職慰労引当金繰入額	- "	28 "
減価償却費	836 "	736 "
貸倒引当金繰入額	63 "	11 "

- 3 研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	6,129百万円	6,044百万円

- 4 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
機械装置及び運搬具	3百万円	3百万円
工具、器具及び備品	309 "	219 "
計	313百万円	222百万円

- 5 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
機械装置及び運搬具	0百万円	2百万円
工具、器具及び備品	0 "	6 "
計	0百万円	8百万円

- 6 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物及び構築物	3百万円	4百万円
機械装置及び運搬具	0 "	0 "
工具、器具及び備品	3 "	1 "
無形固定資産(その他)	-	0 "
計	7百万円	5百万円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	976百万円	875百万円
組替調整額	244 "	- "
税効果調整前	731 "	875 "
税効果額	124 "	260 "
その他有価証券評価差額金	607百万円	615百万円
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	257百万円	130百万円
組替調整額	265 "	127 "
税効果調整前	7百万円	3百万円
税効果額	2 "	0 "
繰延ヘッジ損益	5百万円	2百万円
為替換算調整勘定：		
当期発生額	297百万円	53百万円
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	289百万円	373百万円
組替調整額	415 "	123 "
税効果調整前	125百万円	497百万円
税効果額	-	-
退職給付に係る調整額	125百万円	497百万円
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	160百万円	82百万円
その他の包括利益合計	279百万円	1,247百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首株式数(株)	当連結会計年度増加株式数(株)	当連結会計年度減少株式数(株)	当連結会計年度末株式数(株)
普通株式	97,715,600	-	-	97,715,600

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首株式数(株)	当連結会計年度増加株式数(株)	当連結会計年度減少株式数(株)	当連結会計年度末株式数(株)
普通株式	1,083,293	2,531	-	1,085,824

(変動事由の概要)

普通株式の自己株式の数の増加2,531株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	338	利益剰余金	3.50	平成28年3月31日	平成28年6月29日
平成28年11月11日 取締役会	普通株式	338	利益剰余金	3.50	平成28年9月30日	平成28年12月9日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	338	利益剰余金	3.50	平成29年3月31日	平成29年6月29日

当連結会計年度（自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日）

## 1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首株式数（株）	当連結会計年度増加株式数（株）	当連結会計年度減少株式数（株）	当連結会計年度末株式数（株）
普通株式	97,715,600	-	-	97,715,600

## 2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首株式数（株）	当連結会計年度増加株式数（株）	当連結会計年度減少株式数（株）	当連結会計年度末株式数（株）
普通株式	1,085,824	1,627	-	1,087,451

（変動事由の概要）

普通株式の自己株式の数の増加1,627株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

## 3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4 配当に関する事項

## （1）配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額（百万円）	配当の原資	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成29年 6月28日 定時株主総会	普通株式	338	利益剰余金	3.50	平成29年 3月31日	平成29年 6月29日
平成29年11月10日 取締役会	普通株式	338	利益剰余金	3.50	平成29年 9月30日	平成29年12月 8日

（2）基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額（百万円）	配当の原資	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成30年 6月27日 定時株主総会	普通株式	434	利益剰余金	4.50	平成30年 3月31日	平成30年 6月28日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

## 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日）	当連結会計年度 （自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日）
現金及び預金勘定	10,165百万円	9,939百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	744 "	262 "
有価証券	-	136 "
現金及び現金同等物	9,420百万円	9,813百万円

(リース取引関係)

(借主側)

1 ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として理科学・計測機器事業、産業機器事業および医用機器事業における生産設備（機械及び装置）及び工具、器具及び備品であります。

無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額および期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	40	33	7
合計	40	33	7

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (平成30年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	40	37	3
合計	40	37	3

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年内	4	4
1年超	4	0
合計	8	4



(3) 支払リース料、減価償却費相当額および支払利息相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
支払リース料	4	4
減価償却費相当額	3	3
支払利息相当額	0	0

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定率法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年内	178	162
1年超	284	225
合計	462	387

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に精密理科学・計測機器、産業機器および医用機器製造販売事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入や社債発行）を調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容およびそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、与信管理規定に沿ってリスク低減を図っております。また、営業・サービス部門において取引先相手ごとに期日および残高を管理するとともに、財務状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、上場株式については月次で時価の把握を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金（原則として5年以内）および社債は主に設備投資に係る資金調達です。このうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されておりますが、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引（金利スワップ）をヘッジ手段として利用しております。

デリバティブ取引については、取締役会にて基本方針が決定され、財務本部において実需の範囲において取引の実行および管理を行っております。当社グループのデリバティブ取引の契約先はいずれも信用度の高い銀行であるため、相手方の契約不履行によるリスクはほとんどないと認識しております。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計方針に関する事項 (6) 重要なヘッジ会計の方法」を参照ください。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）を参照ください。）。

前連結会計年度（平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額 ( 1 )	時価 ( 1 )	差額
(1) 現金及び預金	10,165	10,165	-
(2) 受取手形及び売掛金	26,779		
貸倒引当金 ( 2 )	473		
	26,305	26,305	-
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	6,813	6,813	-
(4) 支払手形及び買掛金	(18,064)	(18,064)	-
(5) 短期借入金	(6,571)	(6,571)	-
(6) 社債	(6,062)	(6,063)	1
(7) 長期借入金	(17,166)	(17,245)	79
(8) デリバティブ取引 ( 3 )			
ヘッジ会計が適用されていないもの	-	-	-
ヘッジ会計が適用されているもの	7	7	-

( 1 ) 負債に計上されているものについては、( )で示しております。

( 2 ) 受取手形及び売掛金に係る貸倒引当金を控除しております。

( 3 ) デリバティブ取引は、債権・債務を差し引きした合計を表示しております。

当連結会計年度（平成30年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額 ( 1 )	時価 ( 1 )	差額
(1) 現金及び預金	9,939	9,939	-
(2) 受取手形及び売掛金	30,340		
貸倒引当金 ( 2 )	484		
	29,856	29,856	-
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	7,688	7,688	-
(4) 支払手形及び買掛金	(22,842)	(22,842)	-
(5) 短期借入金	(4,349)	(4,349)	-
(6) 社債	(5,736)	(5,762)	26
(7) 長期借入金	(13,314)	(13,333)	19
(8) デリバティブ取引 ( 3 )			
ヘッジ会計が適用されていないもの	-	-	-
ヘッジ会計が適用されているもの	4	4	-

( 1 ) 負債に計上されているものについては、( )で示しております。

( 2 ) 受取手形及び売掛金に係る貸倒引当金を控除しております。

( 3 ) デリバティブ取引は、債権・債務を差し引きした合計を表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券およびデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(4) 支払手形及び買掛金、並びに(5) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(6) 社債

社債の時価については、元利金の合計額を当該社債の残存期間に応じて新規に同様の社債を発行した場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。なお、1年内償還予定の社債は、社債に含めて時価を表示しております。

(7) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による一部長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており(下記(8)参照)、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっております。なお、1年内返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めて時価を表示しております。

(8) デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位: 百万円)

区分	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
非連結子会社株式及び関連会社株式	2,308	1,527
非上場株式	57	59
出資証券	1	1

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位: 百万円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	10,165	-	-	-
受取手形及び売掛金	26,779	-	-	-
合計	36,944	-	-	-

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位: 百万円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	9,939	-	-	-
受取手形及び売掛金	30,340	-	-	-
合計	40,280	-	-	-

(注4) 短期借入金、社債および長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	6,571	-	-	-	-	-
社債	676	476	288	1,726	2,626	270
長期借入金	4,572	5,106	3,779	1,840	1,868	-
合計	11,819	5,582	4,067	3,566	4,494	270

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	4,349	-	-	-	-	-
社債	576	388	1,826	2,676	126	144
長期借入金	5,266	3,939	2,000	2,028	80	-
合計	10,191	4,327	3,826	4,704	206	144

(有価証券関係)

1 その他有価証券で時価のあるもの

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	6,703	2,339	4,363
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	6,703	2,339	4,363
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	109	135	25
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	109	135	25
合計		6,813	2,475	4,337

(注) 連結貸借対照表計上額 非上場株式57百万円、出資証券1百万円については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	7,575	2,339	5,236
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	7,575	2,339	5,236
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	112	135	23
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	112	135	23
合計		7,688	2,475	5,212

(注) 連結貸借対照表計上額 非上場株式59百万円、出資証券1百万円については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	417	244	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	417	244	-

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当するものはありません。

(デリバティブ取引関係)

- 1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引  
該当事項はありません。
- 2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引
  - (1) 通貨関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
原則的処理方法	為替予約取引	売掛金	1,015	-	7
	売建 米ドル				

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
原則的処理方法	為替予約取引	売掛金	1,380	-	4
	売建 米ドル				

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取 変動	長期借入金	6,455	4,245	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取 変動	長期借入金	4,335	1,230	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。



## (退職給付関係)

## 1 採用している退職給付制度の概要

当社および国内連結子会社2社は、確定給付企業年金制度を採用しております。これ以外の国内連結子会社は退職一時金制度を採用しております。また、一部の海外連結子会社でも確定給付型または確定拠出型の制度を設けております。

なお、一部の連結子会社が有する確定給付企業年金制度および退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債および退職給付費用を計算しております。

## 2. 確定給付制度

## (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付債務の期首残高	17,141百万円	17,646百万円
勤務費用	970 "	1,005 "
利息費用	166 "	167 "
数理計算上の差異の発生額	262 "	124 "
退職給付の支払額	697 "	365 "
連結範囲の異動	-	61 "
その他	195 "	87 "
退職給付債務の期末残高	17,646百万円	18,479百万円

## (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
年金資産の期首残高	7,320百万円	7,838百万円
期待運用収益	132 "	142 "
数理計算上の差異の発生額	27 "	249 "
事業主からの拠出額	1,010 "	1,130 "
退職給付の支払額	464 "	355 "
その他	132 "	50 "
年金資産の期末残高	7,838百万円	9,055百万円

## (3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	439百万円	457百万円
退職給付費用	38 "	44 "
退職給付の支払額	21 "	18 "
退職給付に係る負債の期末残高	457百万円	483百万円

(4) 退職給付債務および年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債および退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	18,323百万円	19,119百万円
年金資産	8,284 "	9,530 "
	10,039百万円	9,589百万円
非積立型制度の退職給付債務	226 "	317 "
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	10,265百万円	9,906百万円
退職給付に係る負債	10,265百万円	9,906百万円
退職給付に係る資産	-	-
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	10,265百万円	9,906百万円

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用およびその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
勤務費用	970百万円	1,005百万円
利息費用	166 "	167 "
期待運用収益	132 "	142 "
数理計算上の差異の費用処理額	285 "	250 "
過去勤務費用の費用処理額	9 "	9 "
簡便法で計算した退職給付費用	38 "	44 "
合計	1,319百万円	1,316百万円

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
過去勤務費用	9百万円	9百万円
数理計算上の差異	135 "	507 "
合計	125百万円	497百万円

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未認識過去勤務費用	51百万円	41百万円
未認識数理計算上の差異	2,236 "	1,728 "
合計	2,185百万円	1,687百万円

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
債券	11 %	12 %
株式	41 "	40 "
現金及び預金	0 "	0 "
一般勘定	41 "	41 "
その他	7 "	7 "
合 計	100 %	100 %

(注) 年金資産合計には、企業年金制度に対して設定した退職給付信託が前連結会計年度12%、当連結会計年度11%含まれております。

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在および予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在および将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表わしております。)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
割引率	1.0%	1.0%
長期期待運用収益率	1.8%	1.9%

なお、予想昇給率は、平成22年7月1日を基準日として算定した年齢別昇給指数を使用しております。

3. 確定拠出制度

連結子会社の確定拠出年金制度への要拠出額は、前連結会計年度135百万円、当連結会計年度136百万円であります。

## (税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
貸倒引当金	71百万円	72百万円
賞与引当金	284 "	380 "
研究開発費	468 "	420 "
未払事業税	74 "	148 "
たな卸資産評価損	296 "	302 "
たな卸資産未実現利益	141 "	581 "
税務上の繰越欠損金	106 "	188 "
その他	610 "	704 "
繰延税金資産(流動)小計	2,054百万円	2,797百万円
評価性引当額	252 "	271 "
繰延税金資産(流動)合計	1,801百万円	2,526百万円
繰延税金負債(流動)	185 "	164 "
繰延税金資産(流動)の純額	1,616百万円	2,362百万円
繰延税金資産(固定)		
減価償却超過額	272百万円	285百万円
ソフトウェア償却費	908 "	900 "
減損損失	72 "	12 "
投資有価証券評価損	198 "	198 "
退職給付に係る負債	2,692 "	2,705 "
役員退職慰労引当金	51 "	50 "
税務上の繰越欠損金	1,334 "	650 "
その他	443 "	295 "
繰延税金資産(固定)小計	5,973百万円	5,098百万円
評価性引当額	4,079 "	3,041 "
繰延税金資産(固定)合計	1,894百万円	2,057百万円
繰延税金負債(固定)	1,538 "	1,687 "
繰延税金資産(固定)の純額	355百万円	370百万円
繰延税金負債(流動)		
その他	247 "	164 "
繰延税金負債(流動)合計	247百万円	164百万円
繰延税金資産(流動)	185 "	164 "
繰延税金負債(流動)の純額	61百万円	0百万円
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	1,216 "	1,480 "
関係会社剰余金に係る税効果	256 "	279 "
その他	70 "	65 "
繰延税金負債(固定)合計	1,543百万円	1,826百万円
繰延税金資産(固定)	1,538 "	1,687 "
繰延税金負債(固定)の純額	4百万円	139百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成30年3月31日現在)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.0 "	2.0 "
住民税均等割等	1.9 "	0.9 "
たな卸資産の未実現利益消去による項目	9.0 "	4.9 "
海外子会社との実効税率の差	2.6 "	0.9 "
外国税額控除	3.0 "	1.1 "
税額控除	1.0	1.9 "
評価性引当額	18.2 "	21.3 "
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	0.9 "
その他	6.2 "	3.1 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	73.8%	5.5%

(資産除去債務関係)

当連結会計年度末における資産除去債務の金額は重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、当社グループ製品が使用される用途による分類に基づく「理科学・計測機器事業」、「産業機器事業」および「医用機器事業」の3つを報告セグメントとしております。

「理科学・計測機器事業」は、電子顕微鏡、核磁気共鳴装置、質量分析計等の製造販売を行っております。「産業機器事業」は、電子ビーム描画装置、高周波電源等の製造販売を行っております。「医用機器事業」は、自動分析装置等の製造販売を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	連結財務諸 表計上額 (注)2
	理科学・計 測機器事業	産業機器事 業	医用機器事 業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	66,510	11,564	21,624	99,698	-	99,698
セグメント間の内部売上高又は振替 高	-	-	-	-	-	-
計	66,510	11,564	21,624	99,698	-	99,698
セグメント利益	1,271	2,664	2,152	6,089	4,012	2,076
セグメント資産	61,480	9,788	18,431	89,700	19,345	109,045
その他の項目						
減価償却費	1,798	281	166	2,246	279	2,525
有形固定資産及び無形固定資産の増 加額	2,735	177	188	3,101	166	3,267

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 4,012百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 4,012百万円が含まれております。全社費用は、主に当社の総務・経理部門等の一般管理部門に係る費用であります。
- (2) セグメント資産の調整額19,345百万円には、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券)であります。
- (3) 減価償却費の調整額279百万円は、報告セグメントに帰属しない当社の一般管理部門の減価償却費であります。
- (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額166百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務諸 表計上額 (注) 2
	理科学・計 測機器事業	産業機器事 業	医用機器事 業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	68,480	16,707	19,382	104,570	-	104,570
セグメント間の内部売上高又は振替 高	-	-	-	-	-	-
計	68,480	16,707	19,382	104,570	-	104,570
セグメント利益	1,066	4,752	2,260	8,079	4,150	3,928
セグメント資産	65,989	12,892	16,138	95,020	19,744	114,764
その他の項目						
減価償却費	2,090	220	169	2,479	188	2,668
有形固定資産及び無形固定資産の増 加額	1,938	354	283	2,576	150	2,727

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 4,150百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 4,150百万円が含まれております。全社費用は、主に当社の総務・経理部門等の一般管理部門に係る費用であります。
- (2) セグメント資産の調整額19,744百万円には、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に余資運用資金（現金及び預金）、長期投資資金（投資有価証券）であります。
- (3) 減価償却費の調整額188百万円は、報告セグメントに帰属しない当社の一般管理部門の減価償却費であります。
- (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額150百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アメリカ	その他	合計
40,339	23,581	35,777	99,698

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	その他	合計
10,900	2,564	13,464

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アメリカ	その他	合計
45,193	18,246	41,131	104,570

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	ドイツ	その他	合計
10,773	1,500	1,323	13,597

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。



【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				全社・消去	合計
	理科学・計測 機器事業	産業機器事業	医用機器事業	計		
当期償却額	369	-	-	369	-	369
当期末残高	2,496	-	-	2,496	-	2,496

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				全社・消去	合計
	理科学・計測 機器事業	産業機器事業	医用機器事業	計		
当期償却額	369	-	-	369	-	369
当期末残高	2,126	-	-	2,126	-	2,126

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の非連結子会社および関連会社等

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	334.11円	386.92円
1株当たり当期純利益金額	6.17円	46.90円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益金額 (百万円)	595	4,532
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益金額 (百万円)	595	4,532
普通株式の期中平均株式数 (千株)	96,631	96,629

## (重要な後発事象)

## (株式併合および単元株式数の変更)

当社は、平成30年5月15日開催の取締役会において、平成30年6月27日開催の第71回定時株主総会に株式併合に関する議案を付議することを決議し、同株主総会において承認可決されました。また、同取締役会において、同株主総会において株式併合に関する議案が承認可決されることを条件に、単元株式数の変更に係る定款の一部変更について決議いたしました。

その内容は以下のとおりであります。

## 1. 株式併合および単元株式数の変更の目的

全国証券取引所は、「売買単位の集約に向けた行動計画」を公表し、平成30年10月1日までにすべての国内上場会社の普通株式の売買単位（単元株式数）を100株に統一することを目指しております。

当社は、東京証券取引所に上場する企業として、この趣旨を尊重し、当社株式の売買単位である単元株式数を現在の1,000株から100株に変更するとともに、中長期的な株価変動等を勘案しつつ投資単位を適切な水準に調整することを目的として、当社株式について2株を1株にする株式併合を実施いたします。

## 2. 株式併合の内容

## (1) 株式併合する株式の種類

普通株式

## (2) 株式併合の方法・比率

平成30年10月1日をもって、同年9月30日の最終の株主名簿に記載された株主様の所有株式2株につき1株の割合で併合いたします。

## (3) 株式併合により減少する株式数

株式併合前の発行済株式総数（平成30年3月31日現在）	97,715,600株
株式併合により減少する株式数	48,857,800株
株式併合後の発行済株式総数	48,857,800株

（注）「株式併合により減少する株式数」および「株式併合後の発行済株式総数」は、株式併合前の発行済株式総数および株式の併合割合に基づき算出した理論値となります。

## (4) 1株未満の端数が生じる場合の処理

株式併合の結果、1株に満たない端数が生じた場合には、会社法の定めに基づき一括して処分し、その処分代金を端数が生じた株主様に対して、端数の割合に応じて分配いたします。

## (5) 効力発生日における発行可能株式総数

株式併合による発行済株式総数の減少に伴い、発行可能株式総数の適正化を図るため、株式併合の効力発生日（平成30年10月1日）をもって、株式併合の割合と同じ割合（2分の1）で発行可能株式総数を減少いたします。

変更前の発行可能株式総数	200,000,000株
変更後の発行可能株式総数	100,000,000株

## 3. 単元株式数の変更の内容

平成30年10月1日をもって、普通株式の単元株式数を1,000株から100株に変更いたします。

## 4. 株式併合及び単元株式数の変更の日程

取締役会決議日	平成30年5月15日
株主総会決議日	平成30年6月27日
株式併合及び単元株式数の変更の効力発生日	平成30年10月1日

## 5. 1株当たり情報に及ぼす影響

当該株式併合が前連結会計年度の期首に実施されたと仮定した場合の、前連結会計年度及び当連結会計年度における1株当たり情報は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 （自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）	当連結会計年度 （自平成29年4月1日 至平成30年3月31日）
1株当たり純資産額	668円22銭	773円84銭
1株当たり当期純利益金額	12円33銭	93円81銭

（注）潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
日本電子株式会社	第20回無担保社債	平成25年 2月28日	200	-	0.45	なし	平成30年 2月28日
日本電子株式会社	第21回無担保社債	平成26年 12月30日	250	125 (125)	0.10	なし	平成30年 12月28日
日本電子株式会社	第22回無担保社債	平成27年 9月30日	1,500	1,500	0.53	なし	平成32年 9月30日
日本電子株式会社	第23回無担保社債	平成27年 9月30日	312	187 (125)	0.10	なし	平成31年 9月30日
日本電子株式会社	第24回無担保社債	平成27年 12月30日	400	300 (100)	0.32	なし	平成32年 12月30日
日本電子株式会社	第25回無担保社債	平成28年 7月29日	1,500	1,500	0.16	なし	平成33年 7月30日
日本電子株式会社	第26回無担保社債	平成28年 9月30日	1,000	1,000	0.10	なし	平成33年 9月30日
日本電子株式会社	第27回無担保社債	平成28年 12月22日	900	774 (126)	0.07	なし	平成35年 12月22日
日本電子株式会社	第28回無担保社債	平成29年 8月31日	-	350 (100)	0.01	なし	平成33年 8月31日
合計	-	-	6,062	5,736 (576)	-	-	-

(注) 1 「当期末残高」欄の( )内書は、1年内償還予定の金額であります。

2 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
576	388	1,826	2,676	126

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	6,571	4,349	1.00	-
1年以内に返済予定の長期借入金	4,572	5,266	1.12	-
1年以内に返済予定のリース債務	436	359	3.56	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	12,594	8,048	0.72	平成31年4月～ 平成34年8月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	630	329	-	平成31年4月～ 平成36年9月
合計	24,804	18,351	-	-

- (注) 1 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。  
2 1年以内に返済予定のリース債務の一部については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額で連結貸借対照表に計上しているため、当該リース債務については平均利率の計算に含めておりません。  
3 長期借入金およびリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	3,939	2,000	2,028	80
リース債務	141	117	41	15

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首および当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首および当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	15,801	40,699	67,817	104,570
税金等調整前四半期純損失金額 ( )又は税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (百万円)	2,086	521	1,639	4,796
親会社株主に帰属する四半期純損 失金額( )又は親会社株主に帰 属する四半期(当期)純利益金額 (百万円)	2,125	731	898	4,532
1株当たり四半期純損失金額 ( )又は1株当たり四半期(当 期)純利益金額 (円)	21.99	7.57	9.30	46.90

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純損失金額 ( )又は 1株当たり四半期純利益金額 (円)	21.99	14.42	16.87	37.61

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2,140	1,696
受取手形	1 6,767	1, 4 8,074
売掛金	1 19,844	1 22,654
商品及び製品	4,751	4,506
仕掛品	24,868	24,547
原材料及び貯蔵品	1,445	1,679
前払費用	55	51
繰延税金資産	1,229	1,499
関係会社短期貸付金	1,365	1,364
未収還付法人税等	139	-
未収消費税等	1,420	1,245
その他	1 1,599	1 1,740
貸倒引当金	191	199
流動資産合計	65,436	68,861
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	2 4,882	2 4,651
構築物	2 89	2 79
機械及び装置	2 572	2 571
車両運搬具	2	7
工具、器具及び備品	2,850	3,290
土地	2 926	2 926
リース資産	684	479
建設仮勘定	292	158
有形固定資産合計	10,300	10,166
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	248	194
リース資産	85	55
ソフトウェア仮勘定	29	79
その他	46	39
無形固定資産合計	409	368
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2 6,871	2 7,748
関係会社株式	8,728	7,759
関係会社長期貸付金	270	-
長期前払費用	9	7
繰延税金資産	240	136
敷金及び保証金	549	514
その他	1,555	1,712
貸倒引当金	7	7
投資その他の資産合計	18,216	17,871
固定資産合計	28,927	28,406
<b>繰延資産</b>		
社債発行費	69	50
繰延資産合計	69	50
資産合計	94,433	97,318

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	9,424	4 11,872
買掛金	1 7,857	1 9,654
短期借入金	2 11,143	2 9,615
1年内償還予定の社債	676	576
リース債務	433	358
未払金	1 1,540	1 1,880
未払法人税等	136	602
前受金	3,222	3,675
預り金	1 490	1 740
賞与引当金	757	1,045
その他	1,520	4 878
流動負債合計	37,200	40,900
<b>固定負債</b>		
社債	5,386	5,160
長期借入金	2 12,594	2 8,048
リース債務	630	329
長期預り金	73	73
退職給付引当金	6,982	7,000
役員退職慰労引当金	138	101
資産除去債務	332	332
その他	66	15
固定負債合計	26,203	21,062
<b>負債合計</b>	<b>63,404</b>	<b>61,962</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	10,037	10,037
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	8,974	8,974
その他資本剰余金	411	411
資本剰余金合計	9,386	9,386
<b>利益剰余金</b>		
<b>その他利益剰余金</b>		
別途積立金	7,237	7,237
繰越利益剰余金	1,778	5,493
利益剰余金合計	9,016	12,731
自己株式	537	538
株主資本合計	27,902	31,616
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	3,121	3,736
繰延ヘッジ損益	5	3
評価・換算差額等合計	3,126	3,739
<b>純資産合計</b>	<b>31,028</b>	<b>35,356</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>94,433</b>	<b>97,318</b>

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	1 83,599	1 89,736
売上原価	1 63,652	1 66,719
売上総利益	19,946	23,017
販売費及び一般管理費		
研究開発費	5,046	4,708
その他	2 15,182	2 15,089
販売費及び一般管理費合計	20,229	19,798
営業利益又は営業損失( )	282	3,218
営業外収益		
受取利息	1 56	1 28
その他	1 1,877	1 1,896
営業外収益合計	1,933	1,925
営業外費用		
支払利息	1 342	1 199
為替差損	506	293
その他	230	110
営業外費用合計	1,079	602
経常利益	571	4,541
特別利益		
固定資産売却益	3 331	3 220
投資有価証券売却益	244	-
特別利益合計	576	220
特別損失		
固定資産売却損	-	4 6
固定資産除却損	5 5	5 5
減損損失	55	47
関係会社株式売却損	-	154
和解金	-	66
特別損失合計	61	280
税引前当期純利益	1,086	4,481
法人税、住民税及び事業税	120	514
法人税等調整額	353	424
法人税等合計	474	90
当期純利益	612	4,391



【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
					別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	10,037	8,974	411	9,386	4,737	4,342	9,080	536	27,967
当期変動額									
剰余金の配当				-		676	676		676
当期純利益				-		612	612		612
別途積立金の積立				-	2,500	2,500	-		-
自己株式の取得				-			-	1	1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				-			-		-
当期変動額合計	-	-	-	-	2,500	2,564	64	1	65
当期末残高	10,037	8,974	411	9,386	7,237	1,778	9,016	537	27,902

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	2,514	-	2,514	30,481
当期変動額				
剰余金の配当			-	676
当期純利益			-	612
別途積立金の積立			-	-
自己株式の取得			-	1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	607	5	612	612
当期変動額合計	607	5	612	547
当期末残高	3,121	5	3,126	31,028

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
					別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	10,037	8,974	411	9,386	7,237	1,778	9,016	537	27,902
当期変動額									
剰余金の配当				-		676	676		676
当期純利益				-		4,391	4,391		4,391
自己株式の取得				-			-	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				-			-		-
当期変動額合計	-	-	-	-	-	3,715	3,715	0	3,714
当期末残高	10,037	8,974	411	9,386	7,237	5,493	12,731	538	31,616

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	3,121	5	3,126	31,028
当期変動額				
剰余金の配当			-	676
当期純利益			-	4,391
自己株式の取得			-	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	615	2	613	613
当期変動額合計	615	2	613	4,327
当期末残高	3,736	3	3,739	35,356

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準および評価方法

(1) 子会社株式および関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 デリバティブの評価基準および評価方法

デリバティブ

時価法

3 たな卸資産の評価基準および評価方法

商品及び製品

...規格品は移動平均法による原価法、その他は個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

仕掛品

...個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

原材料及び貯蔵品

...主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

4 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	7～65年
工具、器具及び備品	2～15年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法、これ以外の無形固定資産については定額法

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(4) 長期前払費用

定額法

5 繰延資産の処理方法

(1) 社債発行費

社債の償還までの期間にわたり定額法により償却しております。

6 外貨建の資産および負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理してあります。

## 7 重要な引当金の計上基準

### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

### (2) 賞与引当金

従業員（年俸制対象者を除く）の賞与の支給に備えるため、支給見込額基準により計上しております。

### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）にわたり均等償却しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

### (4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

ただし、取締役会決議により、役員退職金規定について平成22年4月以降の適用を凍結することといたしました。このため平成22年4月以降の新たな繰入は行っておりません。

## 8 ヘッジ会計の方法

### (1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、金利スワップ取引については特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。

### (2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段：為替予約取引および金利スワップ取引

ヘッジ対象：製品輸出に係る外貨建予定取引、社債および長期借入金の利息

### (3) ヘッジ方針

当社は、企業経営の基本理念である堅実経営に則り、外貨取引のうち、当社に為替変動リスクが帰属する場合において、その為替リスクヘッジのため、実需原則に基づき海外売上計画作成時に為替予約取引を行うものとしております。

社債および借入金の金利変動リスクを回避し、キャッシュ・フローを固定化する目的で金利スワップ取引を行うものとしております。

### (4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつヘッジ開始時およびその後も継続して、相場変動を相殺するものと想定することができるため、ヘッジの有効性の判定は省略しております。

特例処理によっている金利スワップ取引については、有効性の判定は省略しております。

## 9 消費税等の会計処理

消費税および地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税および地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

## 10 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

### 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

## (貸借対照表関係)

## 1 関係会社に対する金銭債権および金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期金銭債権	8,395百万円	10,133百万円
短期金銭債務	4,689 "	4,648 "

## 2 担保に供している資産

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
建物	3,294百万円	3,146百万円
構築物	0 "	0 "
機械及び装置	0 "	3 "
土地	535 "	535 "
投資有価証券	2,580 "	3,192 "
計	6,411百万円	6,878百万円

## 上記に対応する債務

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	1,271百万円	649百万円
1年内返済予定の長期借入金	1,455 "	2,880 "
長期借入金	7,250 "	4,385 "
計	9,976百万円	7,914百万円

## 3 保証債務

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
JEOL USA, INC.の前受金(949千USD)	106百万円	JEOL USA, INC.の前受金(1,373千USD) 145百万円
JEOL(U.K.)LTD.の前受金および輸入通関 税納付猶予に関する保証(922千GBP)	129 "	JEOL(U.K.)LTD.の前受金(2,865千GBP) その他輸入通関税納付猶予に関する保証 (40千GBP) 432 "
JEOL(EUROPE)B.V.の前受金(466千EUR) その他事務所賃貸借契約保証(38千 EUR)	60 "	JEOL(EUROPE)B.V.の前受金(84千EUR)そ の他事務所賃貸借契約保証(30千EUR) 15 "
JEOL(GERMANY)GmbHの前受金(14,459千 EUR)	1,732 "	JEOL(GERMANY)GmbHの前受金(13,920千 EUR) 1,816 "
JEOL(AUSTRALASIA)PTY.LTD.の事務所賃 貸借契約保証(1,584千AUD)	139 "	JEOL(AUSTRALASIA)PTY.LTD.の事務所賃 貸借契約保証(44千AUD) 3 "
JEOL ASIA PTE.LTD.の前受金(5,077千 SGD)	407 "	JEOL ASIA PTE.LTD.の前受金(5,122千 SGD) 415 "
JEOL DE MEXICO S.A.DE C.V.の前受金 (658千USD)	73 "	JEOL DE MEXICO S.A.DE C.V.の前受金 (478千USD) 50 "
JEOL(MALAYSIA)SDN.BHD.の前受金 (2,773千MYR)	70 "	JEOL(MALAYSIA)SDN.BHD.の前受金(846 千MYR) 23 "
JEOL INDIA PVT.LTDの前受金(112,700 千INR)	194 "	JEOL INDIA PVT.LTDの前受金(183,581 千INR) 302 "
JEOL(BEIJING)CO.,LTDの借入金 (218,263千JPY)および前受金(16,599 千JPY)	234 "	JEOL(BEIJING)CO.,LTDの借入金(1,500 千USD) 159 "
計	3,149百万円	計 3,364百万円

4 会計年度末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
受取手形	-	16百万円
支払手形	-	2,449 "
その他(設備支払手形)	-	36 "

5 当社は資金調達の機動性を高めるため、㈱三菱UFJ銀行をアレンジャーとする計6行の銀行との間に融資枠(コミットメントライン)を設定しております。

なお、当事業年度末における当該融資枠に基づく借入の実行状況は次の通りであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
借入枠	9,000百万円	9,000百万円
借入実行残高	-	-
差引借入未実行残高	9,000百万円	9,000百万円

6 財務制限条項

提出会社の平成24年6月8日締結のコミットメントライン契約には、下記の財務制限条項が付されております。

対象決算期の末日における連結貸借対照表における純資産の部の金額

対象決算期直前の決算期の末日における連結貸借対照表における純資産の部の金額

平成24年3月に終了する決算期の末日における連結貸借対照表における純資産の部の金額 14,388百万円

が または のいずれか大きい方の75%の金額以上であること。

## (損益計算書関係)

## 1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	17,572百万円	20,050百万円
仕入高	14,814 "	15,373 "
営業取引以外の取引による取引高	1,837 "	1,375 "

## 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
荷造運賃	1,738百万円	1,825百万円
給料手当	5,216 "	5,244 "
賞与引当金繰入額	277 "	386 "
退職給付引当金繰入額	437 "	414 "
貸倒引当金繰入額	50 "	8 "
減価償却費	588 "	453 "
おおよその割合		
販売費	74%	72%
一般管理費	26 "	28 "

## 3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
機械及び装置	-	0百万円
工具、器具及び備品	331百万円	219 "
計	331百万円	220百万円

## 4 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
工具、器具及び備品	-	6百万円

## 5 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物	3百万円	4百万円
機械及び装置	0 "	0 "
工具、器具及び備品	1 "	1 "
ソフトウェア	-	0 "
計	5百万円	5百万円

(有価証券関係)

前事業年度(平成29年3月31日)

子会社株式および関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式8,686百万円、関連会社株式42百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成30年3月31日)

子会社株式および関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式7,707百万円、関連会社株式52百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。



( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
貸倒引当金	58百万円	61百万円
賞与引当金	233 "	319 "
研究開発費	468 "	420 "
たな卸資産評価損	294 "	299 "
未払事業税	68 "	143 "
税務上の繰越欠損金	106 "	180 "
その他	175 "	259 "
繰延税金資産(流動)小計	1,405百万円	1,685百万円
評価性引当額	173 "	184 "
繰延税金資産(流動)合計	1,232百万円	1,500百万円
繰延税金負債(流動)		
繰延ヘッジ損益	2百万円	1百万円
繰延税金負債(流動)合計	2 "	1 "
繰延税金資産(流動)の純額	1,229 "	1,499 "
繰延税金資産(固定)		
減価償却超過額	252百万円	265百万円
ソフトウェア償却費	908 "	900 "
減損損失	94 "	38 "
投資有価証券評価損	198 "	198 "
関係会社株式評価損	163 "	120 "
退職給付引当金	2,280 "	2,285 "
役員退職慰労引当金	42 "	34 "
税務上の繰越欠損金	1,306 "	602 "
その他	343 "	267 "
繰延税金資産(固定)小計	5,589百万円	4,714百万円
評価性引当額	4,121 "	3,087 "
繰延税金資産(固定)合計	1,467百万円	1,626百万円
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	1,216 "	1,480 "
資産除去費用	11 "	9 "
繰延税金負債(固定)合計	1,227百万円	1,490百万円
繰延税金資産(固定)の純額	240百万円	136百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.9%	30.9%
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.1 "	0.3 "
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	34.2 "	8.1 "
住民税均等割等	2.9 "	0.7 "
評価性引当額の増減額	40.2 "	22.8 "
その他	2.8 "	1.0 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	43.7%	2.0%

(重要な後発事象)

(株式併合および単元株式数の変更)

当社は、平成30年5月15日開催の取締役会において、平成30年6月27日開催の第71回定時株主総会に株式併合に関する議案を付議することを決議し、同株主総会において承認可決されました。また、同取締役会において、同株主総会において株式併合に関する議案が承認可決されることを条件に、単元株式数の変更に係る定款の一部変更について決議いたしました。

詳細につきましては、「1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (重要な後発事象)」をご参照ください。

なお、当該株式併合が前事業年度の期首に実施されたと仮定した場合の、前事業年度及び当事業年度における1株当たり情報は以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	642円22銭	731円80銭
1株当たり当期純利益	12円67銭	90円90銭

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 及び減損損 失累計額又 は償却累計 額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	18,617	177	73	18,722	14,070	403	4,651
構築物	710	5	-	715	635	14	79
機械及び装置	2,742	128	35	2,835	2,264	128	571
車両運搬具	22	8	-	30	23	4	7
工具、器具及び備品	16,404	1,767	357	17,814	14,523	1,296 (47)	3,290
土地	926	-	-	926	-	-	926
リース資産	3,650	53	927	2,777	2,298	250	479
建設仮勘定	292	145	279	158	-	-	158
有形固定資産計	43,367	2,286	1,672	43,981	33,815	2,098 (47)	10,166
無形固定資産							
ソフトウェア	2,460	55	34	2,481	2,287	110	194
リース資産	286	-	-	286	230	29	55
ソフトウェア仮勘定	29	83	33	79	-	-	79
その他	248	-	0	248	209	7	39
無形固定資産計	3,024	139	67	3,096	2,727	146	368

(注) 1. 「当期増加額」又は「当期減少額」の主なものは、次のとおりであります。

機械及び装置	増加額 (百万円)	超精密平面研削盤	54
工具、器具及び備品	増加額 (百万円)	電子ビーム描画装置	178
	増加額 (百万円)	透過電子顕微鏡	147
リース資産	減少額 (百万円)	半導体ウェハ検査装置	160
建設仮勘定	減少額 (百万円)	透過電子顕微鏡	147

2. 「当期償却額」欄の( )は内書きで、減損損失の計上額であります。

3. 当期首残高および当期末残高は、取得価額により記載しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	199	46	38	206
賞与引当金	757	1,045	757	1,045
役員退職慰労引当金	138	-	37	101

(2) 【主な資産および負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番地5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番地5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。 (公告掲載URL <a href="http://www.jeol.co.jp/ir/koukoku/top.htm">http://www.jeol.co.jp/ir/koukoku/top.htm</a> ) ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に公告いたします。
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主(実質株主を含む。以下同じ。)は、その有する単元未満株式について、以下に掲げる権利を行使することができません。

1. 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
2. 取得請求権付株式の取得を請求する権利
3. 募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書およびその添付書類並びに確認書

事業年度（第70期）（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日） 平成29年6月28日関東財務局長に提出

#### (2) 内部統制報告書およびその添付書類

平成29年6月28日関東財務局長に提出

#### (3) 四半期報告書および確認書

第71期第1四半期（自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日） 平成29年8月10日関東財務局長に提出

第71期第2四半期（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日） 平成29年11月10日関東財務局長に提出

第71期第3四半期（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日） 平成30年2月9日関東財務局長に提出

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書 平成29年7月11日関東財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年6月27日

日本電子株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 岡 田 吉 泰

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大 村 広 樹

### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本電子株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本電子株式会社及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。



#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日本電子株式会社の平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、日本電子株式会社が平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
  - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成30年6月27日

日本電子株式会社

取締役会 御中

### 有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 岡 田 吉 泰

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大 村 広 樹

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本電子株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第71期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本電子株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。